

伯友

85

2024.10

特別企画

六甲学院現役生インタビュー

体育祭三役の『体育祭「覇」に懸ける想い』に迫る！

19期 五百旗頭 真氏追悼

奥田 勝一氏(19期)他

先生を訪ねて

音楽教員
中村 駿介先生



ご存じでしたか

六甲伯友会のホームページ

<https://www.hakuyu.jp/>



誌面の都合で会誌「伯友」に掲載できなかった記事も含まれています。
是非アクセスして閲覧してください。

コンテンツ内容

(2024年10月現在)

●六甲伯友会

- 六甲伯友会とは
- 六甲伯友会会則
- プライバシーポリシー
- 六甲伯友会のあゆみ
- 六甲伯友会役員
- 会長挨拶
- 伯友[春号・秋号]
- ROKKOCHANNEL
- YouTubeの紹介
- 伯友会費・伯友基金
- 伯友奨学基金
- 青春時代の想い出
- 校歌(合唱)
- 六甲学院讃歌(合唱)
- 六年の春秋(合唱)
- 六甲卒業生同窓の歌「伯母野の友よ」
- 伯友会歴史資料集
- 学校20周年創立記念写真集
- 校誌「六甲」(1号～56号)
- 六甲歌集(vol.1～vol.5)
- 六甲文芸
- 文化祭プログラム
- 柊
- 体育祭プログラム

恩師・回想・追悼等

Therock六甲伯友会発行の冊子
会報誌「伯友」
〈No.1(1968年発行)～No.85(2024年発行)〉

リンク集

- 各期同期会
- クラブOB会
- 六甲学院・兄弟校関連
- 姉妹校同窓会
- 会員個人開設のHP

●ニュース・告知

- ニュース
- ピックアップニュース
- OB講演会
- PR広場

●投稿記事

- 同期会だより
- クラブOB会・同好会
- 寄稿・紀行・聴こう
- 支部だより

●問い合わせ

- 問い合わせ
- 住所変更等届け
- 投稿用
- 秋号送付に関して
- クラシファイド広告用

ホームページに掲載ご希望の方は原稿と写真等のデータを下記宛てにお送りください。

office@hakuyu.jp



X (旧Twitter) もあわせてご覧下さい。

フォローもお願いします。

六甲伯友会

https://twitter.com/rokko_hakuyu



六甲学院 公式「くま先輩の日誌」

https://twitter.com/rokko_hakuyu



目 次

□巻 頭 言	松下治正 (42)	1
□会務報告		
第 1 号議案 2023年度事業報告		2
第 2 号議案 2023年度収支決算報告		3
第 3 号議案 2024年度事業計画		4
第 4 号議案 2024年度収支予算		5
□2025年度発行次期会員名簿について	会員委員会	5
□六甲伯友会総会・懇親会		
六甲伯友会総会・懇親会	小松原崇史 (56)	6
関東支部	桑田隆行 (56)	7
□2025年度 六甲伯友会 懇親会の案内		8
□＜特別企画＞ 六甲学院体育祭三役現役生インタビュー		9
□19期 五百旗頭 真氏 追悼		14
□先生を訪ねて「音楽教員 中村駿介先生」		19
□同期会		26
13期、14期、20期、29期、33期、37期、50期		
□支部		28
伯医会、ロサンゼルス伯友会		
□クラブOB会		28
山岳部、陸上部		
□OB講演会		
ニューヨーク在住建築家の日々：39期 瀧浦 浩氏	石崎裕二 (48)	29
□トピックス		
フリン先生を偲ぶ会		30
伯友会ジュニア2023年度第 3 回開催！		30
36期 森川雅浩氏 寄稿		30
武宮先生の記念イヤーに向けて	古泉肇 (30)	31
□メディア＜TV放送＞		32
野球部 祝！ 令和 6 年度春季近畿地区高校軟式野球大会 (2024春) 兵庫県大会準優勝		
〔六甲学院〕有名私立中学受験ナビ2024 (兵庫版)		
□書籍紹介		
『いのち果てるとも (申命記・下)』	大頭眞一 (36)	32
『聖化の再発見 シパング篇』	大頭眞一 (36)	32
『牧師・大頭の「焚き火」日記』	大頭眞一 (36)	32
『ルポ 宗教と子ども：見過ごされてきた児童虐待』	藤田剛 (54)	32
『障害者差別解消法と実務対応がわかる本一改正法で民間企業による合理的配慮の提供が義務に一』	水田進 (56)	33
『こども宇宙科学』	津村耕司 (58)	33
□編集後記		34
□会員の皆様へ		35
□2025年度 六甲伯友会総会・懇親会 告知		36

● 卷 頭 言

伯友秋号制作苦労話

六甲伯友会副会長

42期 松下 治 正



伯友会の副会長として、この「伯友」巻頭の挨拶文を依頼されましたが、以前に広報委員長を3期9年間務めさせていただいた頃、ページ数あわせのための「編集後記」とは言いえないボリュームの記事や、インタビューなど、結構書かせていただいたのでお腹いっぱいな感じがします。とはいえ、そんなことを覚えておられる方は一握りの「伯友」愛読者だけなので、ほとんどの「初めまして」の方をイメージして書かせていただきます。

「伯友」の発行には、仕事の片手間で行うには難しいほどの作業を広報委員メンバーがボランティアで行っています。もちろん、事務局や印刷・発送に携わっていただいている業者さまの多大なるサポートは必須です。製作に当たり、広報委員にとって一番楽しくてしんどいのがインタビューです。OB、先生、現役六甲生との新たな出会いがインタビューの醍醐味ですが、その後の文字起こしは、インタビューの時間の5～10倍は掛かります。大変過ぎるので、私が委員長だった最終年は、一旦無くして、ゼロから現委員長の考えでやれるようにしました。

昨年辺りからAIを使った文字起こし（音声認識）を使用して省力化を図り、一番しんどい部分を技術に任せて、読者もさることながら、広報委員も楽しいインタビューを復活させています。蘊蓄を聞いた後に食べるご飯が美味しいように、苦労話を知った後の「伯友」は面白いと思っていただければ幸いです。

さて、文字稼ぎで少し私事を書かせていただきます。六甲時代の私は、サッカーと妄想で過ごした6年間でした。今、副業で専門学校の非常勤講師をしていますが、その頃の馬鹿な自分と比べると、どんな生徒にでも優しく接することができます（笑）

学業の成績はともあれ、卒業後の私は、六甲時代のサッカー部や学校生活で得た仲間、先輩後輩たちに支えられて、なんとか生きています。

サッカー部のOBチーム「六甲ヒルケル」で出会った先輩のお誘いで、Jリーグ・セレッソ大阪の仕事に20数年間携わらせていただきました。その後、セレッソの体制変更に伴い仕事がなくなりそうな時に、サントリーサンバーズ大阪というバレーボールチームのファンクラブ事務局運営の声が掛かり、気が付けばスポーツビジネス界に25年以上も携わっています。

収入は20代前半の頃より何も変わっていない低所得者ですが（泣）、忙しいながらもバラエティに富んだ毎日を過ごせているのは、六甲で得た人脈のお陰です。

劣等生の私でも、自慢できるのは多くの優秀な仲間や先輩後輩がいることです。彼らのお陰で……というエピソード話を書き始めると、私一人で伯友秋号ができてしまう（笑）のでやめておきますが、本当に感謝しかありません。

セレッソの仕事では、多くの選手にインタビューをして記事を書きました。有名どころでは、森島寛晃氏（現・セレッソ大阪社長）や大久保嘉人氏、香川真司選手などがいますが、知る人ぞ知るレベルですが素晴らしい人物にも多く出会えました。読者には、彼らのサッカー選手としての魅力もさることながら、高い人間性を上手く伝えることで、深い共感を得てもらうことが自分の役割と思っていましたので、彼らとの話の中から、本質を引き出すための雰囲気作りや、質問の仕方の大事さを学びました。今、社長業と先生業にその経験が役に立っていると思います。

最後に。オリンピックは終わりましたが、今年からバレーボールはSVリーグという新リーグがスタートします。サントリーサンバーズ大阪は日本代表の高橋藍選手を獲得し、昨年のVリーグ覇者として連覇を目指しています。また、昨年末には世界クラブ選手権に日本チームとして初出場し、3位の成績を収めたので、次は世界制覇を目指しています。まだJリーグほどメジャーではないですが、ぜひ注目してください。よろしくお願いします！

会 務 報 告

2024年度六甲伯友会総会報告

2024年度六甲伯友会総会を2024年4月14日（日）午後3時より、神戸ポートピアホテルにて開催いたしました。

木村副委員長の司会のもと、藤本会長の挨拶の後、濱田副会長を議長に選出し、下記の議案について審議しました。

第1号議案 2023年度事業報告の件
第2号議案 2023年度収支決算報告の件
第3号議案 2024年度事業計画案の件
第4号議案 2024年度収支予算案の件

審議の結果、すべての議案とも承認されました。以下、その内容をご報告いたします。

また、最後に、次期関東支部長候補者・五百旗頭薫氏（49期）より挨拶がありました。

第1号議案 2023年度事業報告

●2023年度末総会員数および終身会員数

	総会員数	終身会費納入者数			年会費納入者数
			抹消者数	終身会員数	
2023年度末	11,609人	7,441人	544人	6,897人	66人
		新規 196人			延べ 81人
2022年度末	11,506人	7,245人	494人	6,751人	59人
		新規 189人			延べ 63人
増減	103人	196人	50人	146人	7人
		新規 7人			延べ 18人

●総務委員会

- ①定時総会 2023年4月23日（日）
於：六甲学院 合併教室
- ②会議運営・資料作成・議事録作成
幹事会 年4回開催 2023年4/8(土) 7/8(土) 10/14(土) 2024年1/20(土)
常任幹事会年4回開催 2023年6/24(土) 9/30(土) 12/1(金) 2024年3/30(土)
- 上記日程にて幹事会、常任幹事会を開催（会場とオンラインの併用）
- このほか、正副会長・委員長会議を2回開催
- ③会費の徴収
終身会費納入者 196人（前年比7人増）昨年189人
年会費納入者 66人（前年比7人増）昨年 59人
- ④本会計・伯友基金・伯友奨学基金・伯友チャレンジ基金の管理
伯友基金として、東ティモールのイエズス会校支援（100,000円）
伯友奨学基金として、年間授業料の1名分相当額を支出（518,400円）

伯友チャレンジ基金として、79期成人の日の集い支援（132,000円）
NY研修支援（100,000円）を支出

●事業委員会

- ①学校事業への協力
- ・伯友文庫の充実
 - ・体育祭：運営スタッフの活動支援（2023年6月10日）
 - ・文化祭：運営スタッフの活動支援（2023年9月24日）
 - ・OB企業訪問（高1）
8月3日 大阪（パナソニック、北浜法律事務所、関西電力）
8月9日 神戸（村上工務店、川崎重工業）
8月24日・25日 東京（東京大学、国土交通省、オリエンタルランド、DIP）
 - ・OB課外講義：2023年5月15日 39期 山脇岳志氏
2023年7月11日 46期 後藤浩也氏
全校生を対象に実施
 - ・強歩会：成績優秀者へのメダル授与（2023年11月21日）
 - ・卒業式：卒業生への記念マグカップ授与（2024年3月2日）
- ②対外事業
- ・四校対抗サッカー大会：2023年10月15日
於：六甲学院
 - ・イエズス会校同窓会連絡協議会（JJHAF）
（2023年10月1日） 広島学院で開催
 - ・栄光学園同窓会総会に出席（2024年2月24日）
- ③伯友奨学基金運営
- ・基金のPR
- ④東ティモールへの支援
- ・募金の呼びかけ
- ⑤伯友会の歴史を記録する活動
- ・資料スキャン等
- ⑥学校との懇談（年2回）
- ・六甲未来基金についての協議など

●広報委員会

- ①会誌「伯友」82号（春号）、「伯友」83号（秋号）発刊
- ②ホームページ、メールの維持管理
- ・ウェブサーバ、ドメインネームサーバ、メールサーバ、SSLサーバの管理、更新
 - ・ホームページ随時更新
 - ・X（旧ツイッター）随時配信
 - ・YouTubeチャンネルの運用
- ③「伯友会活動のあらまし」81期生に配布

財産目録

2024年3月31日現在

(単位:円)

	当年度	前年度	増減
合計	57,230,549	55,129,710	2,100,839
・現金	119,471	75,538	
・郵便局(会費納入受入口座)	26,556,154	25,565,397	
・普通預金/六甲伯友会 (会費納入受入口座)	8,079,013	7,872,000	
・普通預金/決済用普通預金	21,436,883	20,564,883	
・普通預金/伯友会3	1,039,028	1,051,892	

伯友基金口座在高

2024年3月31日現在

(単位:円)

	金額
普通預金 三井住友/六甲	2,163,517
前年度繰越金	2,203,497
寄付収入	60,000
預金利息	20
六甲学院へ支払い	100,000

東ティモール聖イグナチオ学院援助

伯友奨学基金口座在高

2024年3月31日現在

(単位:円)

	金額
普通預金 三井住友/六甲	6,506,470
前年度繰越金	6,681,813
寄付収入	343,000
預金利息	57
六甲学院へ支払い	518,400

伯友チャレンジ基金口座在高

2024年3月31日現在

(単位:円)

	金額
普通預金 三井住友/六甲	768,036
前年度繰越金	1,000,028
寄付収入	0
預金利息	8
支払い	232,000

第3号議案 2024年度事業計画

●総務委員会

- ①定時総会 2024年4月14日(日) 於:ポートピアホテル
- ②会議運営・資料作成・議事録作成
幹事会 年4回開催 2024年4/6(土) 7/13(土) 10/12(土)
2025年1/18(土)
常任幹事会年4回開催 2024年6/22(土) 9/28(土) 12/6(金)
2025年3/22(土)
上記日程にて幹事会、常任幹事会を開催予定。
- ③会費の徴収
- ④本会計・伯友基金・伯友奨学基金・伯友チャレンジ基金の管理
- ⑤インターネットによる会議参加を意識した会議進行の検討

●財政検討特別委員会(必要に応じて開催)

- ①財政状況のモニタリング
- ②収支バランスの継続的検討

●事業委員会

- ①学校事業への協力
 - ・OB企業訪問調整:神戸・大阪・東京で実施予定
 - ・OB課外講義調整
 - ・体育祭:運営スタッフの活動支援
 - ・強歩会:成績優秀者へのメダル・トロフィー授与
 - ・卒業式:卒業生への記念マグカップ授与
 - ・伯友文庫の充実
 - ・学校との懇談:年2回校長と協議
 - ・六甲未来基金の検討(学校と共同で)
- ②対外事業
 - ・イエズス会校同窓会連絡協議会(JJHAF)
 - ・四校対抗サッカー大会

- ・WUJA日本支部立ち上げ検討

- ③伯友奨学基金運営:基金のPR
- ④東ティモールへの支援:募金の呼びかけ
- ⑤伯友会の歴史を記録する活動

●広報委員会

- ①会誌伯友84号(春号)、85号(秋号)、86号(春号)発刊予定
- ②ホームページ、メールの維持管理
Webサーバ、ドメイン、メールサーバ、SSLサーバの維持管理、更新
X(旧ツイッター)配信
- ③「同窓会活動のあらまし」発行、82期生に配布(200部)
- ④クラシファイド広告
- ⑤YouTube動画公開

●会員委員会

- ①総会懇親会実施支援
- ②支部活動支援(関東、中部、ニューヨーク)
- ③各期同窓会支援
- ④同好会支援
- ⑤伯友会ジュニア活動支援
- ⑥80期成人の集いイベント支援
- ⑦82期の情報収集
- ⑧2025年度発行の会員名簿作成に向けての準備作業

●情報管理委員会

- ①Zoomアカウントの貸出、管理
- ②名簿のシステム改修
- ③今後の会議のあり方の検討

第 4 号議案 2024年度収支予算

●本会計

2024年 4 月 1 日～2025年 3 月31日

(単位：円)

(単位：円)

	予算額 (A)	2023年度		増減 (A)－(B)
		決算額	予算額 (B)	
収入の部				
①会費収入	7,950,000	9,063,000	7,950,000	0
・年会費	300,000	243,000	300,000	0
・終身会費当期納入額	7,650,000	8,820,000	7,650,000	0
②入会金	0	24,000	0	0
・新入会員入会金 (人)	0	24,000	0	0
③雑収入	2,000	20	2,000	0
・預金利息	500	20	500	0
・雑収入	1,500	0	1,500	0
・寄付収入	0	0	0	0
・預り金	0	0	0	0
④名簿・広報誌制作協力費(広告収入等)	185,000	137,000	185,000	0
・名簿広告収入	0	0	0	0
・名簿販売収入	35,000	7,000	35,000	0
・広報誌広告収入	150,000	130,000	150,000	0
⑤繰越金からの特別繰入金	914,000	0	865,000	49,000
当期収入合計	9,051,000	9,224,020	9,002,000	49,000

	予算額 (A)	2023年度		増減 (A)－(B)
		決算額	予算額 (B)	
支出の部				
①一般管理費	3,186,000	2,843,959	3,166,000	20,000
・通信費	400,000	274,562	400,000	0
・事務局員報酬	1,800,000	1,748,760	1,800,000	0
・事務備品費	500,000	418,262	500,000	0
・事務局警備費	106,000	105,600	106,000	0
・慶弔費	30,000	7,095	30,000	0
・交通費	270,000	211,800	250,000	20,000
・プロバイダー使用料	80,000	77,880	80,000	0
②事業費	5,365,000	4,279,222	5,336,000	29,000
・総務委員会	300,000	72,500	300,000	0
会議費	300,000	72,500	300,000	0
・事業委員会	740,000	560,394	1,040,000	△ 300,000
学校事業協力費	120,000	112,500	120,000	0
記念品制作費	500,000	347,694	800,000	△ 300,000
対外事業費	40,000	62,000	40,000	0
伯友会の歴史を残す活動	50,000	38,200	50,000	0
伯友文庫費	30,000	0	30,000	0
・広報委員会	2,585,000	2,538,360	2,685,000	△ 100,000
広報誌作成費	1,010,000	754,600	950,000	60,000
広報誌発送費	1,300,000	1,115,297	1,080,000	220,000
インターネット維持費	220,000	630,183	600,000	△ 380,000
伯友会活動のあらし制作費	55,000	38,280	55,000	0
・会員委員会	1,640,000	1,085,968	1,241,000	399,000
調査費	0	0	10,000	△ 10,000
名簿作成費	200,000	187,000	200,000	0
名簿発送費	10,000	1,560	21,000	△ 11,000
会員交流事業費	500,000	456,660	500,000	0
同期会援助費	200,000	62,748	80,000	120,000
支部援助費	480,000	350,000	380,000	100,000
懇親会参加促進費	200,000	0	0	200,000
伯友会ジュニア促進費	50,000	28,000	50,000	0
・情報管理委員会	100,000	22,000	70,000	30,000
システム保守費	100,000	22,000	70,000	30,000
③予備費	500,000	0	500,000	0
予備費	500,000	0	500,000	0
当期支出合計	9,051,000	7,123,181	9,002,000	49,000
④繰越金	0	2,100,839	0	0

2025年度発行次期会員名簿について

会員委員会

2025年内に 5 年ぶりとなる伯友会会員名簿を発行します。

今回も前回同様、株式会社サルトへ名簿発行業務を委託します（調査→編集→校正→印刷→発送→受注→代金回収までの全工程を代行）。なお、経費は名簿販売収入と広告などにより賄うため伯友会からの負担はありません。

また、9 月頃、皆様のところに株式会社サルトから名簿掲載内容を確認する往復ハガキが届いているかと思います。訂正などあり、まだ返信されていない方は決して怪しいものではありませんので、記入の上返送願います。よろしくお願いいたします。

六甲伯友会総会・懇親会

六甲伯友会総会・懇親会

伯友会総会・懇親会

2024年度 六甲伯友会 総会・懇親会のご報告

日 程：2024年 4月14日（日）

会 場：神戸ポートピアホテル

〔平成塾〕 12：30～14：30（本館 2Fのじぎく・すみれ）

〔総 会〕 15：00～16：00（本館 2Fのじぎく・すみれ）

〔懇親会〕 16：30～18：30（南館 1F大和田の間）

参加費：1～56期 10,000円、56～80期 7,000円

81期 無料

*総会のみ現地開催・Web配信両方行い、平成塾・懇親会は現地開催のみとしました。



56期幹事代表 小松原崇史



57期幹事代表 石原隆行



懇親会会場を盛り上げてくれたサルサダンサーのみなさん



懇親会最後の集合写真

2024年度 伯友会総会・懇親会幹事より

今年度の伯友会総会・懇親会は、4月14日（日）に神戸ポートピアホテルにて開催いたしました。

懇親会は「仲間と過ごす豊かな時間」をテーマに、プロのサルサダンサーやミュージシャンを招き、大いに盛り上げていただきました。出席された皆様に楽しんでいただこうと近年とは趣向を変えた会。幹事として開催まで不安も多かったですが、諸先輩方が積極的に盛り上げてくださり、非常に楽しい時間となりました。お忙しい中ご出席いただ

いた皆様が「来年も足を運びたい」と思う会となっていれば幸いです。

また、開催に至るまで多くの先輩方にアドバイスとご馳走をいただき、六甲の繋がりの強さを実感しました。お忙しい中様々な面でお心遣いいただきました伯友会会長をはじめ、伯友会幹事の皆様、事務局の鎌田様、西川様に心より感謝申し上げます。

（幹事代表 56期 小松原崇史）

株式会社 マヤテック

〒650-0024 神戸市中央区海岸通5 商船三井ビル

取締役会長 五代友和（15期）

TEL(078)391-3721, FAX(078)391-3927



宮野医療器株式会社

〒650-8677 神戸市中央区楠町5丁目4番8号

相談役 宮野 淳（19期）

TEL(078)371-2121, FAX(078)371-2300, E-mail: a.miyano@miyano.co.jp
URL: <https://www.miyano.co.jp/>

関東支部

関東支部

2024年度 六甲伯友会 関東支部懇親会のご報告

日 程：2024年7月6日（土）

会 場：上智学院

【令和塾】13：00～14：30（2号館414教室）

令和塾対談「我々はどう生きるか」

【懇親会】15：00～17：00（11号館ラウンジ）

参加費：5,000円（70期以下2,000円、学生無料）

参加者：懇親会 88名

【来賓】 栄光学園同窓会 3名、翠友会 1名

六甲学院中学校・高等学校 1名、上智学院 1名

【伯友会員（敬称略）】

18期 宮城、20期 辻、23期 大谷/西林/松口/森

24期 石原/伊藤、25期 塩口、28期 管田

30期 木下/古泉/寺井/中山/房、31期 白井/藤本/前田

32期 中林、33期 山口、34期 和田、38期 朝日/豊原

39期 樋口、41期 藤本、42期 門永/藤原、

43期 井上/浮田、44期 北島/藤田/山神/渡辺

49期 金田/中曽/林/平池/山内/五百旗頭

50期 川原/小谷/山本、52期 宇佐美/河南/古泉/水原

54期 石井/鈴木/藤田、55期 迫/西/山内/守上

56期 井上/大崎/甲斐/北野/桑田/小松原/正下/寺川/

鳥居/西口/松尾/村本/森/山本/吉川

57期 重村/武田/谷村、60期 田村、61期 萩本

62期 森崎/山口、63期 近藤、65期 岡谷、66期 丹山

71期 姫田、78期 出口、79期 折中、79期 山本

本年も上智学院キャンパス内のカフェテリアをお借りして実施をいたしました。

18期から79期まで幅広くご参加いただき、世代を超えて楽しく懇親を深めることができました。

冒頭では上智学院イエズス会中等教育担当理事の李聖一神父様からご挨拶をいただきました。入学から卒業まで担当頂いた恩師でもありましたので、幹事学年としては特に感慨深いものでありました。

関東支部については新体制も決定し、新支部長の五百旗頭様からもご挨拶いただきました。温かい言葉の中に伯友会に対する深い愛情も込められており、新たな結束が生まれたと感じております。

姉妹校の皆様からいただいたお言葉からも繋がりの大切さを感じさせられました。これからもこの貴重なネットワークを大切にしていきたいと思っております。

停電による新幹線遅延の影響もあり、駆けつけていただいたにも関わらずご参加頂けなかった方も多数おられました。お会いできなかったことは非常に残念でしたが、次の機会の楽しみにできればと思います。

末筆ではございますが、今年の実施にあたってはご担当の伊藤様を中心に上智学院総務局中等教育事務室の方々には手厚いご支援をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

（幹事代表 56期 桑田隆行）

2024年度六甲伯友会関東支部
令和塾及び懇親会のご案内

令和塾対談 「我々はどう生きるか」

55期：守上 佳樹

49期：五百旗頭 薫

医師：（一社）KISA2隊 OYAKATA

教授：東京大学大学院法政学政治学専攻

デジタル化、グローバル化、新しい働き方の登場など、COVID-19の影響もあり世界は急速に変化し続けています。VUCAという言葉に代表されるよう先行きが不透明で将来の予測が困難な時代に我々はどう生きべきなのか？今回は教育、医療の最前線に立つ卒業生のお二人に登壇頂き、対談形式で開催します。

令和塾対談「我々はどう生きるか」パンフレット



55期 守上佳樹



56期幹事代表 桑田隆行



49期 五百旗頭薫



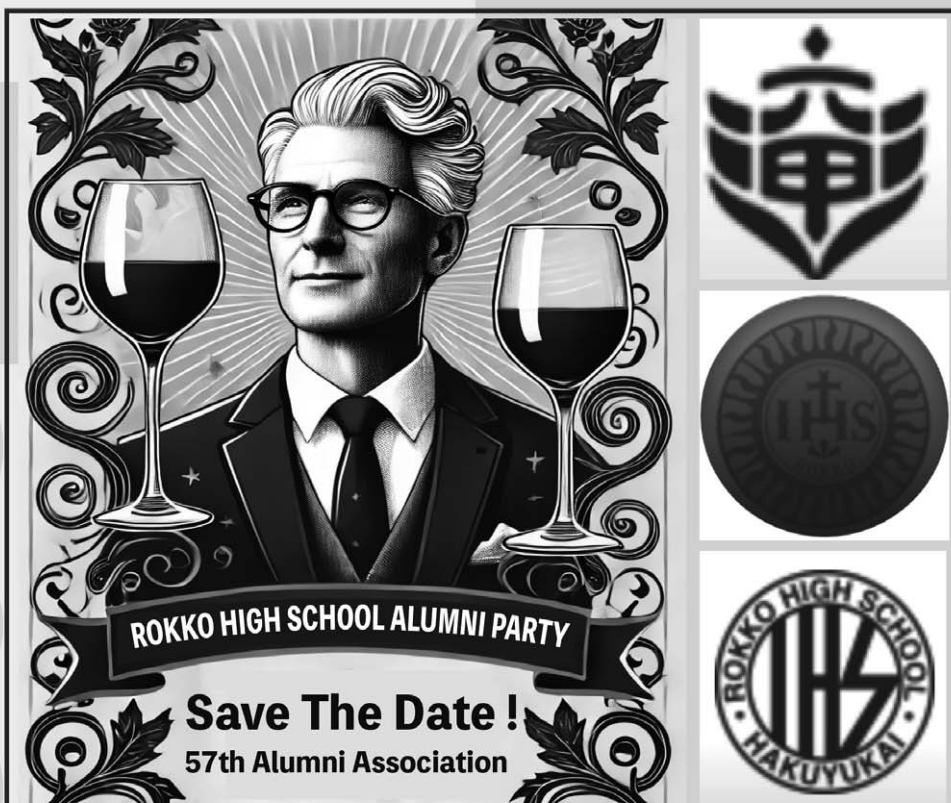
令和塾対談の様子



懇親会最後の集合写真

2025 年度 六甲伯友会 懇親会の案内

2025年伯友会懇親会



代表;石原 隆行 (57期野球部)

今年は57期が懇親会を担当させていただきます。
楽しい企画を考えています。お楽しみに!

日時;2025年5月10日(土)

会場;神戸ポートピアホテル

時間や詳細は順次お知らせいたします

企画;麻尾、勝、川上、木村、坂田、高井

会計;棕野、水野

関東;重村、武田、谷村

広報;菊池、藺、吉田(悦)

57期 X アカウント
@hakuyu2025
Follow us !

Rokko Junior/ Senior High School Alumni Party 2025

Kobe Portopia Hotel



特別企画

六甲学院体育祭三役現役生インタビュー

体育祭「覇(はたがしら)」に懸ける想い

日 時：2024年5月25日（土）午後4：15～5：15

参加者：

土井大空君・森蔵太君・安部健佑君（以上、82期）

山岸先生（40期）

宇都宮（20期）・藤枝（50期）・岸本（53期）

体育祭のテーマを「覇（はたがしら）」とした体育祭三役に体育祭に懸ける想いを体育祭直前に聞きました。

第83回目となる歴史ある体育祭を彼らはどのようにとらえて取り組んでいるのでしょうか。伝統と革新を融合した今までにない体育祭「覇」の核心に迫ります。



左：森副委員長、中央：土井委員長、右：安部副委員長

— 本日は体育祭三役へのインタビューをさせて頂く機会を頂きありがとうございます。

まずは委員長からお名前、クラブなどの自己紹介をお願いします。

土井 名前は土井大空です。

バドミントンもやってます。

— バドミントン部の部長ですか。

土井 部長だったんですけど4月のタイミングで部長は高2に変わって、まだ部活入ってます。

— みんなは82期で高校3年ですね。高3になったらもう部長は高2に譲るの？

土井 そうです。

体育祭終わったらもう受験に行くって感じです。文化祭は高2がやります。

— 体育祭への想いをお聞きしたいです。

土井 まず、僕が六甲に入りたいと思ったきっかけが、小学校4年生の時にお母さんに無理やりみたいな感じで六甲の体育祭連れて行かれたんですけど、総行進を見て、1000人が1つのグラウンドで、文字とか色々やってて、それ見て、面白くなっていうのと同時にカッコいいな、やりたいなっていう風に思って六甲入りたいなっていう風に思ったことです。生活過ごしていった中で先輩方の体育祭を経験する中で、自分たちの代の時は六甲の歴史の中で一番すごい体育祭を作りたいなと思って、体育祭委員長になって80年の六甲の歴史ある体育祭の1ページを僕が刻みたいなと思ったので体育祭委員長になりましたし、委員長になったからにはそんな体育祭を作りたいと思っています。

— そう思っても体育祭の委員長にはなかなかないやんか。学年に180人ぐらいいる中で選ばれないといけな

いと思うんだけどどうやって決まっていたの？

土井 まず、立候補する人を募る時期があって、そのタイミングで僕と、もう1人の子が出たんですけど、その子は指導員の子で、正直、僕もリスペクトしてるような友達で、信頼も厚かったんですけど7分間のスピーチで学年の全員が投票して決めます。

— みんなの前で、すごいな。

土井 その7分間のスピーチで普通に言ったらその子の方が人望があって優れてるので負けてしまおうかなって思ったんですけど、やっぱり諦めたくないっていうか何がなんでもやりたいって思いで。1週間くらいずっと夜な夜な考えながら、台本を書いては消して、書いては消して。1時間くらい練習して、勝つことができました。

— なるほど。7分間のスピーチで、みんな選んでくれたんやね。わかりました。

もう1人立候補した子がいたやんか、その人は役員やってるの。

土井 その子は負けた時に、自分の中で色々考えて先頭役員になって、指導員なんで、その指導した学年の前を自分が引っ張りたいてって言って先頭役員になってます。

— わかりました。

お2人は副委員長になるのかな。

森 森蔵太と言います。部活はサッカー部に入っていて、この前まで部長してたんですけど今は引退して、ちょくちょく練習に行ってるって感じです。ポジションはセンターバックです。

— なるほど。森君の、体育祭の思いと、副委員長はどうやって決まるの？

森 副委員長も委員長と同じ感じで、学年から有志を

募って、学年全体から投票を受けるっていう形になるんですけど、今年は僕とアベちゃん含めて3人立候補してそこから2人に選んで頂く形です。その時も、選挙戦の時に土井と色々話したりしてて。で、やっぱ、2人で委員長、副委員長やりたいなって話をしてて、結局土井が委員長になって、その後、次は俺の番やなって感じで、やらなあかんなって感じで、それもしっかり成功できてなれたっていう感じです。

— 体育祭への思いに関しては。

森 まず、副委員長になろうとした動機っていうのが去年の体育祭は「燎（かがりび）」だったんですけど、僕の仲いい人が副委員長をやっていて、僕はその時演技役員をやったんですけど、その時に副委員長ら三役が上に立って歩くんですけど、それを見てるとやっぱすげえかっこいいなと思って。その六甲の1000ぐらい人数がいる中でも、トップの3人っていうのは、やっぱり下から見ても全然違うポジションやし、そこで1つの憧れを抱いてて。その頃は全然上の役はやりたいけど、三役とかにはならんかもなって思ってたんですけど、文化祭を経験して、文化祭は三役ではないんですけど、重役をやらせていただいて、その時に上に立ってみんなを引っ張っていくっていうか、そういうポジションはすごい楽しいし、楽しいとともに、やり終わった後の達成感がすごいあるなってことを思って。で、体育祭が近づいていくにつれて、どんどん副委員長でもいいし委員長でもいいから、三役の立場をやってみたいって思うようになって。そこで土井と話し合いもして、副委員長になろうって決意して今に至ってます。体育祭の想いというのは「覇」という漢字の中に「史上最高の」という意味が含まれていて、史上最高の体育祭を作りたいというのがまず大元の思いで、僕たち82期なんですけど82期はすごい学年全体として活気がある学年で。何事に関しても、悪く言ったらお祭り騒ぎ、よく言ったら観客も含めてみんなを盛り上げるっていう感じで。文化祭もそれのおかげで大成功を収めて。そういうところもあって、僕たちの学年のポテンシャルなら、絶対これまでの歴史に名を残すくらいの体育祭が作れるって思ってるので、先生にも82期の体

育祭がすごかったって言ってもらえる、みんなの記憶にも残る、そういう体育祭を作りたいと思ってます。

— 素晴らしいです。感動します。もう1人の副委員長の安部君をお願いします。

安部 所属して引退したんですけど、バスケ部に所属していて、部長もやってました。

— みんなすごいね。

安部 ポジションは、ポイントガードです。

役割が1つじゃないんですけど簡単に言ったら、全体をよく見るポジションですか。サッカーで言ったら、ボランチみたいな感じですか。

— わかりました。

安部 僕は結構バスケが本当に好きでバスケをずっと続けてて、ポジションは元々中学の時は背が大きい方でセンターとかフォワードっていうデカめの子が入るポジションだったんですけど、だんだんみんなが伸びてきて、ガードってシートのポジション、結構小さめの人があるとこなんですけど、になって。一応全部のポジションを経験してたんで、大体どのポジションの人が何をしたいとか、そういうのは結構わかる方です。

— マイケルジョーダンもそうらしいね。全部のポジションをやっていたと。

安部 結構それ大事になって思い経験しました。

— サッカーもそうですね。体育祭への想いはいかがですか。

安部 結構2人が話してくれて被る部分もいっぱいあるんですけど、副委員長は、高1とかぐらいかな、なりたいなと思って。土井は小学校の時から体育祭に憧れを置いて委員長にやりたいっていう気持ちがあったと思うんですけど、僕は正直自分が高校生としてやるまでは、体育祭のすごさを知らなかったし、中学の時は楽しませてもらうだけっていう感じだったんですけど、高校に上がってから、コロナ明けてから、やっと体育祭ができるってなった時に、中学の時の経験とは違う感触があって、下の学年が増えるにつれて自分たちが、体育祭にすごい関わって良いなっていう意識が強くなってきて絶対に自分も高3になった時に



萱村君デザインのTシャツ背面



萱村君の「書」であるTシャツ胸の「覇」

は役職をやりたいなって思って。

上で行進してる人が目に入ったんですけど、自分の性格も考えた時に、委員長っていう役職は、僕の性格上、そんな得意なポジションじゃなくて、キャプテンっていうのと委員長っていうのは全然違うと思って、キャプテンっていうのは態度で示したりあと実力もすごい必要かなと。やっぱりみんなの言うことを聞かせないといけないんですけど、キャプテンって言ったら部活内だけじゃないですか。でもやっぱり委員長って日頃の生活を全く知らない人も含めて、関係者の気づかいをしないといけないので、僕の性格上それが難しいのかなと思って。でもその委員長を1番近くで支えたいなって思って、僕は多分これが1番性格的に合うなって思って、誰にも相談することなく副委員長やりたいなと思いながら過ごしてたんですけど、去年競技パートに入って、競技も高1までは受け身で楽しませてもらう立場だったんですけど、競技パートにいざ入ると、競技は成り立たせないといけなくて、その難しさとか体育祭ってほんまにすごいんやなって思わされるというんですかね。そのパートごとを仕切る副委員長というのはさらに大変なんだなと立候補する前から思ってたんですけど、立候補したからには絶対受かりたいっていう気持ちがあったんで原稿を書いて、友達に聞いてもらうのではなく親に聞いてもらって、こう言う方がいいよとかいっぱいアドバイスもらったんですけど、いざ話してみると、全員の視線が自分にあって、すごい緊張したし、僕は最後に話したんですけどその前で話した森が結構、僕から見たらすごいすっきりしたスピーチでこれはまずいなっていう風には思って、でもそのスピーチが終わった後にもうなるようにしかならないからと、投票結果は受かってたんで良かったです。もう1人落ちた子もいて、その子も先頭に結局行ったんですけど、その子はすごい終わってから積極的に僕に話しかけてくれて、信頼してくれてるっていうのはすごいいいなと思いました。森が言ってくれた、82期の特徴として全員一致団結っていうのが大好きです。落ちて結局1つのものを作り上げていく仲間だからと、そういう意識がすぐに何も言わず勝手に学年の中で芽生えつつあるのはすごいいいこ

とかなと思います。

— なるほど。自分の特性を客観視できて、すごい大人だと思いました。それで分析して、で、自分が1番みんなの役に立てるところっていうポジションはここやなっていうところで、しかも副委員長っていうのはすごいね。責任ある立場だし、なかなかないけど、それをやりたいと思ってなるっていうのは素晴らしいと思いました。

78回の時も「覇」というテーマだったんですよね。で、その時中止になったんですよね、コロナで。

土井 そうです。

— 中止になった「覇」を我々が引き継ぐんだという思いなのか、その「覇」に決めた経緯を教えてください。

土井 元々、全員史上最高の体育祭を作るっていう目標というか、夢みたいに思っていて、史上最高っていう意味を持った漢字を探していたら、「覇」が見つかった。

その時に中1の時のこと思い出して、78期の先輩が、僕らが六甲に入った時に、右も左も分からない時に、指導員の先輩が僕たちに色々教えてくれて。

— そうか、指導員が78期なんやね。

土井 それで今、僕たちがこうやって色々できてるのも指導員の先輩たちが教えてくれなかったら、何もできてないですし、指導員の先輩からリーダーシップなどを教えてもらったから、こうして、役員になれてるわけで。

そんな78期の先輩たちの体育祭楽しみやなって思ってたから、コロナウイルスの影響で、そもそも学校自体がないみたいになってしまってた、指導員の先輩の中にその年の体育祭委員長がいっちゃってすごい楽しみにしてたんですけど先輩たちの体育祭を見ることができずに終わってしまってた。ずっと心残りだったんでその、「覇」見た時にちょうど僕たちの思想っていうか、想いとも合ってるし、そこで僕たちがもう1回「覇」を作って成功させたら78期の先輩たちの無念も晴らせるし、コロナがあっても六甲学院の歴史が築かれているっていう、先輩と後輩の繋がりの強さを示せるかなっていう風に思ったので、「覇」を選びました。

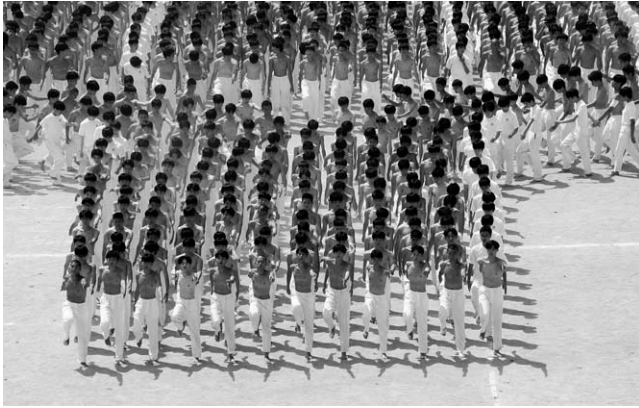
— 素晴らしい。もう、感動しっぱなしで、僕自身もすご



インタビューの様子



体育祭「覇」への熱い想いを語る三役



最初の12列行進



壇上で行進し気持ちで1000人を引っ張る三役

く体育祭好きでね、40歳ぐらいの時に体育祭を見に行ったんですよ。もう20何年ぶりに。涙が溢れてくる、感動で。当時の一生懸命やってたっていうね、純粋な自分を思い出すっていう。40歳になるとなかなか当時の気持ちって思い出せないんだけど、フラッシュバックして思い出して、すごく感動したんです。1番思うのは音楽が一緒なんです。小太鼓のスネアドラム。ダラダダダラダダ、ダララララララダダ。あれ、僕らの時も一緒だったんですよね。宇都宮さんの時も一緒でしたか？

宇都宮 私は音楽部やったので、ずっと伴奏してたんで、行進はしてないんですよ。あの当時いろんな行進曲を繋いでバックにしてたよね。その曲と曲の繋ぎに小太鼓のソコは入ってましたけども、ドラムは全く一緒だと思います。——やはり同じなんです。音楽って記憶を呼び覚ましてくれると思うんですけど、また熱い思いが蘇ったりします。話を戻しまして、行進の案とか、大体去年と一昨年と構成が一緒かなと思うんですけども、こういったメニューを考えてるのか、またその決め方とかを教えてください。企画の子が作ってんのかな。

土井 そうですね、企画が、毎日コンピュータールームでパソコンと向き合いながら、本当細かい、1ミリ単位ぐらいで調整して作ってくれてます。全部企画で案を出して、三役はもちろん入るわけですよ、決定会議みたいなところで、みんなで決めるっていう感じです。

——すごいね、僕らも建築やからね、幾何学とかね、仕事ですごくやるんやけども、そういうのにたけた人がやるのかな。

土井 正直僕らも全員コンピューター詳しくないんで、見てもこうやってやるんやみたい。

僕がこういう風にやってほしいなって言ったらオッケーって言って、パパパッとやってくれるんで。

——それ萱村君じゃない？

あのglanzのロゴをデザインした。

土井 萱村はそういうのは得意じゃない。

「書」っていうのが得意なんで。

このTシャツの「覇」は萱村が書いています。萱村が書いて

てそれをパソコンに詳しいやつにハイって渡したら、本当すごい共同作業で作ってくれる。

——萱村君の「書」もすごいね。

あとは騎馬戦すごく好きで、めっちゃ熱くなるんやけど。僕らも見えて。総行進以外の見どころとかあったら教えてください。

安部 僕は去年、競技パートには所属してたので。

競技って当たり前に成り立ってるようで実はめちゃめちゃなんで、ルールもしっかりしないとイケないし、想定外のことがいっぱい起こるんで、それを修正するためにも、毎日会議して、できるだけ本番で、みんな公平に、より楽しくできる、どうやってできるかっていうのを毎日考えてやってるんですけど、熱意を持って参加してくれてるのは、すごいいいなと思うんですけど、昨年の体育祭は、それでも特に中学生とかはまだ、体育祭に熱意を注いでない子も結構いっぱいいて、テントの下とかで休んでる子とか、違う話をしてる子とか、別に悪いわけじゃないんですけど、そういう子も結構いっぱいいて。

僕たちからしたら全員が楽しかったって思って終わるのが最高の体育祭なんで。そのためにも、去年から競技応援団をやってるんですけど、例えば高校生が参加してない中学生の競技中とかも応援団と一緒に声出そうって誘ったりしてるので、例年の体育祭の競技よりさらに生徒らの熱量を上から見た時に感じるかなと思います。

——いいね、本当熱いよね。本当素晴らしいね。

視点を変えるんだけど、六甲精神っていうかね、武宮元校長から受け継いだね、僕らも持ってるし、六甲精神、そういうのどう思ってるのかな。漠然とした質問になるんだけど。

土井 正直中学生の頃とかはなぜ六甲だけあるんだろうみたいな感じで、中間体操もなぜ20分休みに走るんだろうと思ってたんですけど、高校生になっていざそれを指導する立場とか、伝統を引き継ぐ立場になった時に、六甲のアイデンティティの中間体操だったり訓育、30キロの強歩大会を経験すると、人としての気持ち成長すると思いますし、それを今度教えたり引き継ぐ立場になった時に1つのそれ

こそ伯友会にいらっしゃる先輩と今の中1もどちらも中間体操経験したことあるじゃないですか、その1つの同じ学校にいたってという繋がりを持てるかなと思います。

— ほんまそうやで。僕らも六甲卒業生と会ったら、もうすでにその6年間同じことやってきてるからその絆がある。太い絆。初対面でそれをいつも感じます。

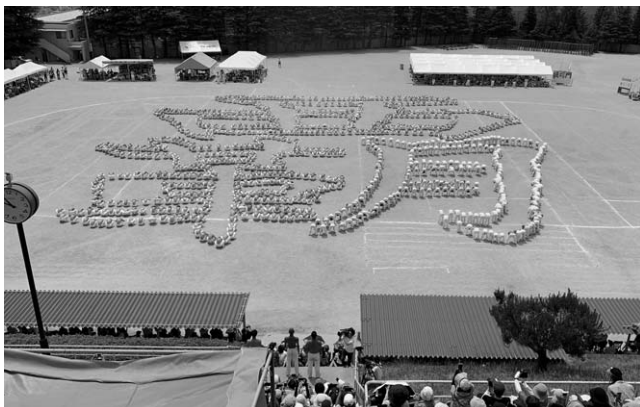
森 まさにおっしゃる通りです。

土井 人生経験とか全く別だと思うんですけど中1から高3までの経験が1つになるっていうのは大事だと思います。

岸本 去年だったかな。僕ラグビー部出身なんですけど、ラグビー部のOBメール、現役の子も入ってるLINEグループがあって、そこで突然アンケートで、去年の体育祭の行進で服を着たいっていう人が結構一定数いて、OBはどう思いますか、みたいなアンケートが突然回ってきたことがあってその後どうなったかっていうのはフィードバックもなかったけど、それって話し合われたのかな？

土井 そのアンケートを実施してくれた子って僕たちの同級生なんですけど、今実は六甲に所属してなくて、留学したんです。体育祭参加できないわけじゃないですか。それで、その最後に、僕たちと5年間過ごしてきた中で、自分も何らかの形で役に立ちたいと思って、その子が実施してくれて。僕が委員長になったっていうのをニュージーランドで聞きつけて僕にその結果を送ってくれて。やっぱり正直この問題は正解がないと思うんですよ。在校生に聞いても卒業生に聞いても、絶対上裸やっていう人もおれば、全員着衣でもいいまで1から100まであると思うんですけど、OBの方々の声を知れたっていうのが僕たち的には大きくて。その着衣上裸のアンケートを見て、僕ら3人で決めれる問題じゃないとないと思うんですけど、たった1人の生徒が突然送ってきたアンケートに、確か100件くらいアンケート答えてくださって、しかも長文で記述してくれるのを見て、歴史を感じたじゃないですけど、どんな形であれ、総行進は途切れさせたらあかんという風に思いました。

— ありがとうございます。本番行かせてもらいます。最



みんなの熱い思いが結集した「覇」

後に記念撮影だけさせていただいて、今日終わりでございます。長時間ありがとうございました。

彼らの純粋な熱い想いと必死で最高の体育祭にしようという気持ちは痛いほどジンジンと伝わってきて、インタビュー中は感動しっぱなしでした。すごく色んなことを考えていて、何とかして最高の体育祭を実現しようとする創意工夫の積み重ねは彼らを成長させてくれるし、こうした生徒の力ですべてを作り上げるという82年続く伝統は素晴らしいし、改めてこの伝統を守って行かなくてはならないと思いました。そんな彼らの将来が楽しみにもなりました。体育祭当日の彼らの姿を見て改めて彼らの求めてきたものを体感することが出来ました。総行進が終わった後、委員長の土井君と話が出来、やり切った達成感で一杯だった姿が印象的でした。

今後も卒業生としても出来ることはやって行きたいと思います。みなさまも是非体育祭に足をお運びください。生の体育祭を体で感じて頂ければ幸いです。

また、下記YoutubeでTV放映や録画を観ることも出来ます。彼らの勇姿を是非ご覧下さい。

(文責 50期 藤枝誠)

■六甲学院中学校・高等学校Youtube公式チャンネル

第83回六甲学院体育祭「覇」 総行進映像 (体育祭広報パート撮影)

<https://youtu.be/LL3pq1ee8jQ?si=vB5pfLNBrFsFqxEj>



■読売テレビ【かんさい情報ネット ten./カラフル】

1000人の青春！80年以上続く伝統行事 六甲学院の「総行進」に密着

放送日：2024年6月14日（金）

<https://youtu.be/JsqWklgNLT0?si=zqoDRZlbBdUsgWKP>



■NHK青春100K

中1から高3までどう足並みをそろえる？先輩が教室で熱血指導！10代が本気で挑む汗と涙の日々に密着

放送日：2023年7月30日（日）

NHK総合にて放送

<https://www.youtube.com/watch?v=GpH6TbL65PE>

総勢1000人の大行進！中1から高3までをまとめる実行役員たちの試行錯誤の日々。



い お き べ まこと 19期 五百旗頭 真氏 追悼



2006年 六甲伯友会会長就任

2014年 六甲伯友会会長退任

五百旗頭さんが六甲伯友会の会長に就任されたときは神戸大学法学部教授をされていた。2006年8月から2012年までは防衛大学校長に、その後は熊本県立大学理事長、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長に就任され超多忙な生活をされていた。それでも幹事会や総会への出席、強歩大会優上位入賞者へのメダル授与、卒業式への出席等々会長職の責務を果たされておりました。

交流の深かった方、関係のあった方からの追悼のお言葉を頂いておりますので掲載します。

様々な思い出を振り返り、みなさまと共に祈りたいと思います。



山岳部時代の思い出

19期 奥田勝一

五百旗頭君の訃報に接した時はただただ茫然とし言葉もありませんでした。

昨年12月の19期関東同期会に元気な姿を見せていつもの長話をしていたにもかかわらずその3か月後に突然姿を消してしまったのでした。

彼と私は山仲間、山岳部で苦楽を共にしてきました。中学の時に私は持病が悪化して学校を9か月ほど長期休学し治療に専念、復学した時は体力に自信が無く山岳部への復帰を躊躇し悩んでいました。その時に五百旗頭君が私に「僕も小学校の時身体が弱く肋膜炎の疑いで3か月休学した、その時の寂しさ・苦しみは今でも忘れていない。僕の3倍の期間も療養した君の苦しみや辛さはよくわかる、でも無事に復学できたのだから山岳部に戻って一緒に体を鍛えようではないか。」と励まして私の背中を押してくれたのでし

た。山岳部へ復帰後は彼のサポートもあって体力的にも精神的にも鍛えられていったのでした。

山岳部の練習はつらく苦しいものでした。特に30kgほどの砂袋を担いで六甲山を歩く「重量運搬」は気が遠くなるほど厳しい練習でしたが五百旗頭君は自分も苦しいにも関わらず率先して仲間を励まし、挫けそうになる私にもしばしば声をかけてくれ最後まで落伍することなく頑張ることが出来たことは忘れることが出来ません。このような練習で養われた体力と精神力で北アルプスをはじめ数々の合宿を仲間と経験することが出来たのは彼のお陰であります。厳しい練習に耐えた彼はその後「強歩大会」で3連覇するという偉業を成し遂げたのでありました。

山岳部には「十の掟」があり毎週土曜日午後の練習前に全員で唱和していました。五百旗頭君はこの「十の掟」のなかでも特に次の言葉を口ずさんでいました。

「我等は快活笑って困難に当たる」

「我等は兄弟献身愛を以って助け合う」

「我等は常に親切総ての人を友とす」

「十の掟」の精神を実践した彼はその後の人生での局面



山岳部部活合同登山でリーダーとして
右端五百旗頭さん、左端奥田（筆者）



卒業後の集まり(同期)
前列右端五百旗頭さん・後列右端奥田（筆者）

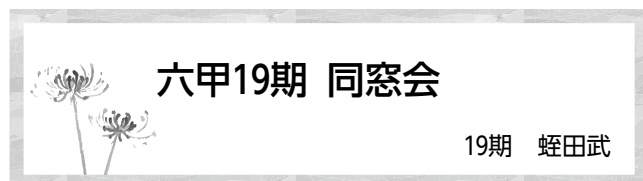


防衛大学開校祭2011年11月
19期同窓生を囲んで中央五百旗頭さん・右端奥田（筆者）

で少なからずこの影響を受けていたように思います。防衛大学校長を任された時はかじ取りの難しい学校改革に着手し多忙であったにもかかわらず「開校祭」には同期の仲間を快く招いてくれたことが思い出されます。「復興構想会議」の議長を務めた時は強いリーダーシップで見事にその役目を短期間で果たしたのであります。

彼がこの世を去る2日前に、同期で入院中の西林君に見舞いの電話をして励ましの言葉をかけたそうです。友を思う優しい心配りに彼の人柄が偲べれます。

改めて五百旗頭君のご冥福をお祈りします。



今年の3月6日（水）に我が同期の五百旗頭真君が急逝しました。東京でも神戸でも彼の「偲ぶ会」が開催され、歴代の首相4名を始め、こちらでも2名の知事、国会議員、大学の関係者など著名人が参列し、あらためて彼の業績の凄さ、人脈の巾の広さを思い知らされました。神戸での「偲ぶ会」では、私も友人代表として「弔辞」を読ませていただきましたが、主に彼の六甲時代のエピソードを語りました。

我々19期は、昨年ほとんどが80歳になり、今会っておかないと、次回は会えるかどうか分からないと、昨年は関西と関東で同窓会を開催しました。関東の同窓会には五百旗頭君も参加し、あのよどみない口調で語り続けていたのが、



関西での同窓会（2023年11月16日（木））

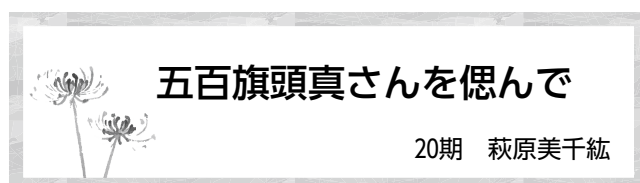
今も強く臉に残っています。

現在、我々の仲間の40名余りは故人となり、現在も病で苦しむ同期生が数名居ます。あの伯母野山での6年間で共に過ごした日々も、もう忘却の彼方になりつつありますが、武宮校長、マツさんに鍛えられた「六甲魂」をいつまでも持ち続け、元気に過ごしたいと思う今日この頃です。

武宮校長の「すべてのものは過ぎ去り、消えゆく。その奥にある永遠のもの」と言う言葉は、今強く心に沁みます。



関東での同窓会（2023年12月6日（水））



五百旗頭真さんは、私が中3から入った山岳部の1期先輩である。彼の思い出でまず浮かんだのは、

① 毎年冬に行われる60km強歩大会で、陸上競技部の連中をもものともせず、常に上位か1位の成績で走り切ったことである。私などは山岳部に入るまでは、最下位グループであったが、山岳部に入ってから高一以降は上位でゴールへ戻れるようになった。というのも山岳部員は六甲山周辺の近道を熟知しており、特に船坂峠から下るDW七曲りなどは、直登ルートを使えばごぼう抜きできたからである。五百旗頭先輩の真面目な性格からすると、こんなズルをしたとは思えない。

②「乗鞍岳」冬山合宿

私が高一で五百旗頭さんが高二のとき、冬の乗鞍岳合宿に参加した。位ヶ原で、ベースキャンプを設営して、登頂の機会を待ったが、悪天候でアタックできず位ヶ原周辺で、スキージャンプしかできなかった。練習中に1期上の先輩Mさんが足を捻挫してしまった。阪上先生はMさんをおんぶしてかついで撤退することを表明。2人分の荷物を分けて2人を空身にして、6人で時々交代はしたが体力・持久力のある五百旗頭さんが中心となりMさんを負ぶって下った。

③ 百丈岩の誓い

道場の百丈岩のふもとで、高一・高二が幕営したことが

あった。エネ大会で歌を歌ったりして楽しんだあと、誰が言い出したかわからないが10年後の今月今夜、ここに集まってキャンプしようと皆で約束？した。この約束通り10年後に集まったかどうかは定かではない。

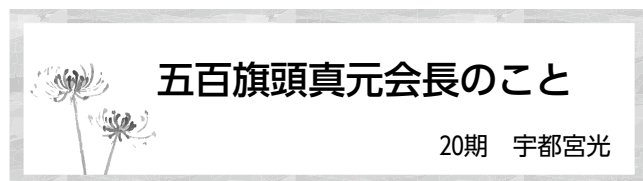
④ 授業料はタダ

六甲学院は兄弟3人が在籍すると、3人目の授業料が無料になる特典がある。少子化対策に有効な制度であり、当時としては画期的なものである。五百旗頭さんも、この適用を受けておられ、皆からよく冷やかされていた。

⑤ 愛はすべての善の根源

五百旗頭真さんが高二のとき山岳部の機関紙「たきび」に、「山と部」という文章を寄稿されている。山岳部に対する愛・山への愛・リーダーとして部員に対する愛を語られている。彼の生涯の航跡をたどると、カトリック信者らしく「愛はすべて善の根源」という信念が貫かれているのが垣間見える。

政治・歴史・社会学者として学問や社会に対する愛、災害等の危機管理では被災者に対する愛、リーダーとしては日本ひいては世界人類に対する愛、を根源に広い分野で活躍・指導・助言されました。我が国にとって、惜しい人財を亡くしましたが、五百旗頭先輩が撒かれた種が良い方向に育つようお願いしつつ、心よりご冥福をお祈りいたします。



五百旗頭真元会長のこと

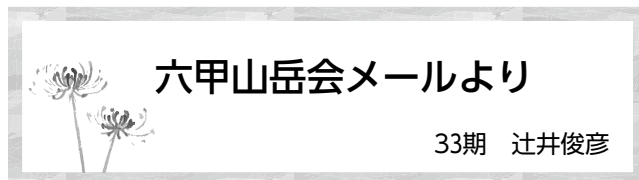
20期 宇都宮光

私は五百旗頭さんが会長就任される前から副会長をさせていただいていましたが、2008年から私的な楽しみとしてタイへ行ったり来たり二重生活を始め、副会長どころか会のお世話もままならない無責任ぶりです。辞退を申し入れても聞き入れられず2014年3月会長が退任されるまでだらだらと副会長をさせていただいていました。

ある年、強歩大会の表彰式に出席が叶わず私が会長代理として出席することがありました。ご存じのように五百旗頭さんは中学三年生から高校二年生まで強歩大会3連勝という輝かしい記録をお持ちで、強歩大会の上位入賞者を讃えるのにふさわしい方でした。一方の私は毎年遠足気分で行き先で最下位あたりにいる情けない生徒でしたので他

の副会長をお願いしたのですが、一番年寄りだからと持ち上げられプレゼンターを務めたのです。

いつも微笑みを浮かべ、幹事会のあとは後輩達との雑談に応じられるなど親しくご指導された先輩のご冥福をお祈り申し上げます。



六甲山岳会メールより

33期 辻井俊彦

2024年3月13日

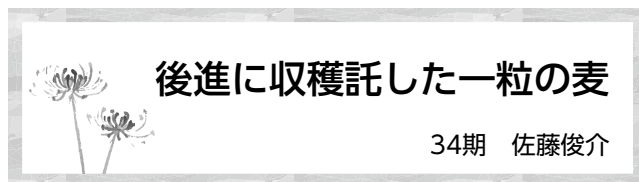
積読になっていた、五百旗頭真さんの著書の「日米戦争と戦後日本」を読みました。1989年に出版され、2005年に講談社学術文庫にも入った名著。46歳の時に書かれた本です。

太平洋戦争の早期、真珠湾の半年後からアメリカが対日占領政策を検討し始めていたことに驚きました。アメリカにとって、日本に勝つことは当たり前で、戦勝国として敗戦国をどのように望ましい国家にするかを考えていたとは。

良識のある何人かの知日家の努力で戦後日本が日本人にとって望ましい民主主義国家に再建されていった過程、そして昭和天皇がいかに名君であったかがよくわかりました。

五百旗頭さんは阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震の災害復興にも深く関わっておられ、昨年8月に岩波現代文庫から「大災害の時代」を出されているのを知り、次に読んでみようと思います。

尊敬すべき先輩を持てたことは六甲生の誇りです。



後進に収穫託した一粒の麦

34期 佐藤俊介

五百旗頭先輩の葬儀・告別式は、カトリック夙川教会で3月11日に執り行われました。私は六甲学院山岳会（六甲山岳部OB会）塩村仁会長（30期）の代理として、出席させていただきました。

みな かわ
南川和茂法律事務所
〒530-0047 大阪市北区西天満4丁目1番15号 西天満内藤ビル4階
弁護士 **南川和茂** (23期)
TEL (06) 6365-0400, FAX (06) 6365-0455
E-mail: kaminakawa@nifty.com

 **三輝工業株式会社**
〒555-0043 大阪市西淀川区大野1丁目5-12
濱田誠剛 (27期)
本社・工場 TEL (06) 6475-5156(代), FAX (06) 6475-5406

会場には伯友会の弔旗が掲げられ、司祭が説教で強歩大会や武宮初代校長の長い話に触れるなど、六甲葬のような雰囲気でした。

司式は、喪主の長男・五百旗頭薫さん（49期）の六甲6年間の恩師、イエズス会の李聖一神父。

「一粒の麦は、落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」（ヨハネによる福音書12章24節）をもとに説教されました。

「故人は、阪神・淡路大震災の被災体験をもとに、東北地方太平洋沖地震や熊本地震の復興に尽くされた。それだけに能登半島地震を目の当たりしながら何もできずに逝くことを残念に思われるに違いない。

政治学者としては、日本一国の国益のためではなく、世界のため、人類一人ひとりの平和や幸せを考えられていた。

お父様の真治郎氏はトマス・アフィナスを経済の視点で研究され、国益ではない一人一人の善、『共通善』を唱えられた。そうした考え方を受け継がれたからこそ、宮内庁の参与を務め、皇室からも供花をいただくことになった。

『一粒の麦は、落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ』は、後に続く者が引き継ぐということ。志を受け継いで多くの実が結ばれる」

李神父は、後に続く者のために、五百旗頭さんが惜しみなく熱意を注がれたエピソードを紹介されました。

「五百旗頭さんは、話が長いことで有名。広島学院在籍中、講演にお招きしたことがあったが、話が延び、たまりかねて『続きは座談会でも』と、いったん終わってもらった。忙しい方なので、まさかと思っていたが、本当に続きの座談会をしていただいた」

薫さんの喪主挨拶でも、多くのお弟子さんが育ったことに言及されていました。「あと10年は頑張ると、今後やるべきリストを作っていた」というくだりでは、“君はまだまだ若い、志を持っているか”と、ガツンと活を入られた思いでした。

薫さんに「山岳部OB会から参りました」とご挨拶したところ、「父は山岳部大好きでした。天国に山がないのは残念ですが。いや、山がないなら山を作るかもしれませんね」

六甲学院山岳会の定例行事である故阪上秀太郎先生（1期）の墓参、摩耶東谷のバーベキューに出席された折には、「困ったことがあったら声を掛けてくれ」と励ましていただき、大変嬉しく思いました。

山岳部OB一同、阪上先生を敬愛の念を込めてオッサンと呼び、「六甲『山の男』十の掟」に代表される、その教えを誇りに思っています。同時に、最後の学年となった私は、伝統は守るだけではなく未来を志向してこそ輝きを増す、と考えています。

「十の掟」の一つ、「我等はリーダーを信頼し、その命

に服従す」のころは、“山は経験である。そして規律である”。山に限らず、リーダーは現場に身を置き、いま体験しつつあることと過去の人生経験、自らの志を融合して考え抜く、明確な目標を掲げる。いざ決まったことは、パーティー丸となって遂行する。

薫さんは、伯友会関東支部の新支部長として斬新な構想を表明されています。一粒の麦は芽を出しました。多くの実を結べるよう応援していきたいと思います。



2021年10月、長峰墓地でオッサンを偲ぶ。
なかほど白髪の方が五百旗頭先輩



五百旗頭真先生の思い出

54期 石井宏武

五百旗頭真先生のご逝去に際し、心より哀悼の意を表します。

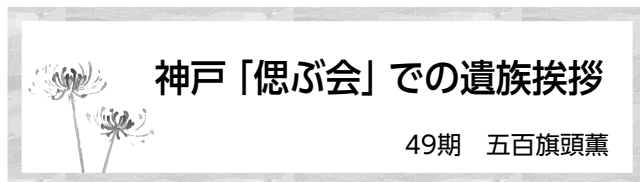
先生との出会いは、2011年秋の伯友会中部支部懇親会での講演でした。当時、先生は防衛大学校長をされており、東北大震災時の防衛大学在校生がとられた行動をご紹介いただきました。また、東北大震災が発生した日本の状況が、地震・噴火が相次いだ平安期の貞観時代に酷似しており、今後、引き続き日本が災害に見舞われるおそれがあり、防災に力をいれなければいけないことを講演いただきました。当時、業務で震災対応に携わっていた私にとっても印象深い内容でした。その後、2021年より五百旗頭先生が座長をされていた神戸五百旗頭塾に参加させていただきました。

神戸五百旗頭塾とは、五百旗頭先生を座長とした国政・国際問題の勉強会となります。この勉強会のもと、六甲学院OB北村隆志氏の海上保安庁長官退官慰労会に参加された五百旗頭先生及び自衛隊関係者を中心とした勉強会となります。神戸においても2016年より開催されたことで、神戸五百旗頭塾が発足されました。発足当時は、国政・国際問題について五百旗頭先生が講演いただき、講演内容について参加者とディスカッションするスタイルで行っていましたが、直近では参加者がテーマを設定、発表し、発

表内容について五百旗頭先生とディスカッションを行うというスタイルとなっておりました。私の拙い発表に対して、先生は微笑みながら丁寧に話を聞いていただき、様々な示唆をいただきました。勉強会後の懇親会にも参加され、先生が参加者全員に平等に声をかけておられた様子をよく覚えております。

五百旗頭真先生のご逝去は、私たちにとって大きな損失です。先生はよく「最後は人だ、人を育てないといけない」と話されていました。先生の教えとその精神は、これからも私たちの心に生き続けることでしょう。改めて、これまでのご指導に感謝するとともに、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

この追悼文が、五百旗頭真先生への敬意と感謝の気持ちを伝える一助となれば幸いです。



皆様、本日は父を偲ぶためにご参集下さり、まことにありがとうございます。また、兵庫県庁、神戸大学、兵庫県立大学、そしてひょうご震災記念21世紀研究機構の皆様が、ご多忙の中、このような会を開いて下さったことに、心より御礼申し上げます。

3月6日の朝、父は上機嫌で家を出ました。父は家族のためにカレーを作ったのですが、それがうまくいったからだったかもしれません。大概、上機嫌な人だったので、上機嫌の原因を詮索してもあまり意味はないかもしれません。研究機構の理事長として元気に仕事をしているうちに、背中に痛みを感じ、ほどなく意識を失いました。急性の大動脈解離でした。娘のさやかが病院に駆けつけ、死亡を確認しました。遺体を家に連れ帰った時には深夜でした。空腹で、でも料理をする元気は残っていませんでした。ふと冷蔵庫をあけるとそこには父のカレーがありました。カレーはおいしかったそうです。父の人生はその日に終わりましたが、父のカレーはさやかの命を明日につなぎました。生前と同様、死してなお、父は人を育むことをやめませんでした。私たち家族にとって、大きな存在でした。

勝手ながら家族と門下で父を茶毘に付しました。しかし父があまりにも急に亡くなったので、皆様と同様、私たちも父の苦しむ姿を目にしておらず、今でも元気で愉快な姿ばかりが記憶にあります。だから父を諦めることができず、苦しんでおります。

悲しみや喪失感を超えた、不安も私は感じて参りました。父が急逝してから今日まで、多くの方に多大の支援を賜りました。その方々の中にも、不安に向き合っているように

感じている方がいらっしゃるように思われました。この不安の所在について、今日まで考えて参りました。

父の固有の研究分野は、日本が絶望的な戦争に突入し、敗北し、復興する時代の外交史でした。父自身、1943（昭和18）年生まれであり、戦後日本の難産から青春までを伴走した前半生でした。失敗しても再生のバネが力強く働くというのが父の日本観であり、自画像でもありました。だからおっちょこちょいが治らなかったのですが、朗らかで楽しい人でした。

父が後半生を迎える中、日本の経済成長や人口動態も、いわば高齢化の様相を呈しました。あたかも加齢が人体の不具合を増すかのように、多くの災害に見舞われるようにもなりました。この後半生も父は明るく生き抜きました。退いて自重するのではなく、前向きに体を動かすことで浮揚効果を得て、元気に働き続けました。衰えを自覚しないわけではなく、自覚した上で、静かな微笑みとともに新たな目標を立て、戦線を張り直し、前向きに挑みました。この達観と負けん気と楽観の絶妙なバランスをどうとっていたのか、聞いてみればよかったです。父はまだまだ長生きする。ついでに日本もまだまだ大丈夫、私たちは何となくそう思っていました。その父が、急逝しました。

父の死というものが、日本が希望を持てた時代の終わりを象徴してしまうのではないかと。そんな暗い予感に私はとらわれています。しかしどんなに不安にとらわれても、まぶたによみがえる父は、いつも希望に溢れています。

そこで父を偲んで下さる皆様に、お願いががございます。父の希望が日本の希望として実を結ぶよう、ご尽力を頂けないでしょうか。リスクをとる若者を応援したいと思えます。

やみくもにリスクをとるのではなく、ビジョンをもった若者を育てたいと思えます。そのために曇りのない目で現実を認識できるように、学問を発展させたいと思えます。現実を認識した上で希望を見出せるように、イマジネーション、想像力のある文化を育みたいと思えます。人々が足を引っ張り合う雰囲気では、イマジネーションは空元気へと、現実認識は諦めや居直りへと、すぐに劣化してしまいます。そうならないように、真剣かつ明朗な政治を持てれば、と思えます。

父生前のご厚誼に心より感謝申し上げます。遺された家族へのご高配とご指導をお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。



先生を訪ねて

この欄では、六甲の先生を訪ねて、インタビューを通してその先生のご活躍をご紹介します。
今回は、音楽教員 中村駿介先生にお話を伺いました。

氏 名	中村 駿介（なかむら しゅんすけ）
出 身	神戸市灘区（六甲道）
担 当 教 科	音楽、音楽部顧問

日 時：2024年7月3日（水）午後1：00～2：00

参加者：中村先生・山岸先生
20期宇都宮、25期久保、50期藤原、59期多田

— よろしくをお願いします。簡単な経歴からお聞きます。
六甲へ来て何年目ですか。

中村先生（以下、先生） 3年目です。大阪南港にある相愛大学音楽学部を卒業しまして、その後、大阪教育大学の大学院に進んで2年。そちらを修了してからはトランペットの指導をしたり、関西を中心にオーケストラにエキストラで入らせていただいたり、音楽関係のいろんな仕事をしながらフリーランスの音楽家として活動をしていました。楽団で言うと、プロの吹奏楽団の一つに所属をしていたり、宝塚の演奏グループにも入らせていただいたりしながら。
— 歌劇団ですか。

先生 歌劇団にはエキストラで何回か参加したことがあり、舞台前のピットのところで演奏したことがありますね。
— あれは基本、生演奏なんですか。

先生 半分生演奏で、半分は録音を重ねて出しています。
— ご出身はどちらですか。

先生 実は六甲（注：地名）なんです。六甲道駅の南側が実家で。生まれた時から六甲です。
— トランペットはいつからですか。

先生 中学生の時に吹奏楽部に入ったことでトランペットと出会い、そこから約20年ですね。小学校からピアノは習っていました。音楽が好きで、部活動を選ぶ時に吹奏楽部に入ろうかなということで。本当にたまたまトランペットに決まりました。
— トランペットはたまたまなんですか。

先生 たまたまです。吹奏楽部に入り、もちろん全部の楽器をお試しで色々やってみて、先生と先輩方とで選んでいただきました。希望は一応聞かれるんですけど、希望通りというよりはそれぞれの生徒に合った楽器を選んでいただいたのがポイントでした。
— 実は別の楽器をやりたいかったということは。

先生 もちろんサクソとかね、カッコよかったので希望していたはずですが。サクソに男の先輩もいたので、楽器体験の時、色々教えてもらったりもしました。体が小さかったので、大きい楽器はなかなかできないというのもあって、

必然的に小さい楽器の中で選ぶことになり、トランペットになったんだと思います。

— なるほど、運命の出会いですね。

先生 そうですね。それがあったから今があるっていう感じですね。

— 吹奏楽部自体のレベルはどうでしたか。

先生 コンクールは地区大会止まり、アンサンブルのコンテストで県大会に出たことはあるんですけども、そこまでレベルは高くなかった。

— その時はまだ音楽で食べていく気はなかったのでしょうか。

先生 全然なかったですね。好きだなというぐらいで。

— いつぐらいからそういう心が芽生えましたか。

先生 音楽の道に進もうと思ったのは、高校3年生になってからだったんです。結構遅かったんですよ。進路選択は元々理系で、国公立大学を目指して数学や物理、化学を勉強していたんですけど、高校3年生の夏のコンクールが終わって、受験勉強に専念するぞってなった時、心にぽっかり穴が開いてしまったような気持ちになって。自分の人生の中では、音楽を趣味でやることはもちろん考えていたんですけど、やっぱり音楽に携わるようなことがしたいと思って。そこから進路を変更して、音楽の道に行くことを決断しました。

もちろん音楽の世界はお金がかかることもわかっていましたし、妹が二人いるので、家庭にも負担をかけたくないとか、いろんなことは考えてました。最終的に親に相談をした時に、本当に行きたいんだったら目指したらいいんじゃないかということで。ただ、学校の先生方には猛反対されましたね。音楽の先生、担任や学年主任、最後は校長先生まで出てきて、面談を受けました。

— 反対の理由は。

ある程度の成績を収めていたんで、おそらく学校側としては勉強で行ってくれたらすごく嬉しいし、そのまま勉強を頑張って就職をした方がいいんじゃないかなという、音楽の先生のアドバイスもあったんです。

— 国公立ですか。

先生 はい、そうです。ただ、教師になってからこんなこと言うのは良くないかもしれないんですけど、面談の中で、「敷かれたレールの上を歩いたら、お前は幸せになれるんや」っていうことを言われたんですね。僕は敷かれたレールの上を歩くってことを言われた時点で、いや、そんなことは望んでないと。自分の行きたい道を、それが茨の道だったとしても、頑張ってそっちの道に行きたいなと、その一言があったから余計に決断できました。

— なるほど。

先生 それを伝えたので、もちろん中途半端なところでは引き返せないし、しっかり頑張らなきゃいけないなという思いもありました。国公立の受験勉強をしていたので、センター試験を受けて、1年目は国公立の芸大を目指していたんですけど、半年そこらで受かるわけもなく、一浪して、最終的には私学の相愛大に入りました。

— 高3からレッスンを受けたんですか。

先生 高校の部活動でのレッスンもあったので、楽器のレッスン自体は高1の時からずっと受けてはいたんですけど、マンツーマンでレッスンを受け出したのは高校3年生からです。

— 目標を決めてから、マンツーマンのレッスンを受けて。

先生 そうですね。勉強し始めました。元々ピアノをやっていたこともあって、ある程度の音楽的な知識はあったので、その部分では助かりました。

— 何が1番難しかったですか。

先生 やっぱり自分のスキルアップに一番時間をかけました。専門ができないのももちろん受かることはできないので、そこが一番苦しかったと言えば苦しかったですね。副科でピアノを弾くとか、聴音と言って、音を聞いたものを楽譜に起こすとかいうのもあったんですけど、その辺りは教えられた時点である程度はできました。

ずっとやっていたとはいえ、レッスンを受け始めたのが高3からだったので、関西圏のうまい同級生たちの演奏をレッスンの前後に聞くと、上には上がいるなっていうことは感じましたし、もっと頑張らないといけないなとも思いました。

— 志望は音大だったんですか。教育大学の音楽系を目指される方もいらっしゃるでしょう。そうではなくて演奏家になりたいと思われたのですか。

先生 そうですね。やるからにはやっぱり演奏メインで、というのが頭にはありました。ただ、大阪教育大学の教養学部の中にそういった演奏専門のコースもあるんです。1年目に受けたのはそこだった。

— そうなんですね。

先生 このインタビュー依頼をきっかけに私も振り返ったんですけど、当時を思い返してみると、音楽がとにかく好きなんだよなって。その音楽の素晴らしさを自分でも演奏したいし、いろんな人に伝えたいっていう思いは高校生の時からあったんですね。その素晴らしさって何かなって思った時に、やっぱりライブ、生の演奏の良さっていうのを伝えたいなという想いがあった。そのためにはやっぱり自分が生の演奏家、演奏ができる立場の人にならないと、言ってるだけだと、なかなかそれは伝わらないだろうなと。音楽の良さや素晴らしさを自分の演奏を通じていろんな人に伝えたいし、届けたい、知ってもらいたいという思いが強かったです。

— 自分の技術向上もさることながら、それとも中村先生の中にあるものを表現したいんだっていうのが、高3の時に既にありましたか。

先生 自分の中では正直なかったですね。吹奏楽を通して、いろんな作品を知ったり、演奏したりすることで、もっともっといろんな曲を、僕自身も知りたいし、知らない人にたくさん知ってもらいたいと思っていたので、自分自身の思いを伝えるというより、作品を、音楽自体の素晴らしさを自分ももっと知って、たくさんの人に伝えたいという気持ちでしたね。

— 世の中にはこんなたくさん素晴らしい作品があるんだと、それをもっともっと知らせたいということですね。大学時代の1番の思い出は。

先生 大学時代の思い出は演奏技術の向上に明け暮れたことですね。まさに音楽漬けの毎日。1時間半ぐらいかかる通いだっただんですけど、学校が開く時間、7時とか7時半ぐらいには大学へ行き、夜は学校が閉まる10時までいて、朝から晩まで練習をしていましたね。座学もあるんですけど、半分以上は実技です。ソロからアンサンブル、数人のものからトランペットの専攻生全員で演奏するトランペットアンサンブルがあったり。吹奏楽の授業もオーケストラの授業もあるので、自分が演奏するものもそうですけど、演奏しないときは上級生のものを聴講しに行ったりもして

株式会社 ハヤシホレイ

〒661-0021 尼崎市名神町2丁目10-15

代表取締役 林 敬一 (31期)

TEL (06) 6429-7661

弁護士法人 アーネスト法律事務所

〒651-0055 神戸市中央区熊内橋通7-1-13

神戸芸術センター 2803号

弁護士 藤本久俊 (31期)

TEL (078) 265-0810 FAX (078) 977-8065

いました。あと面白かったのは、トランペット以外にも、ピアノ、声楽、1年間だけなんですけど、打楽器、弦楽器のチェロもそれぞれ副科として経験をしました。本当にいろんな楽器といろんな音楽に触れていった感じですね。

— 本当に吸収の時期だったわけですね。

先生 そうでしたね。

— 大学院への進学は。

先生 大阪教育大の大学院は特殊なんですけど、芸術文化専攻と言って、音楽専攻だけじゃないんです。美術専攻と書道専攻の人たちも一緒に学ぶ。大学院の中のそういう仕組みのところに入ったんですけど、芸術全般に対してもっと自分の知識を深めたいと思ったのと、そういった人たちとの交流も自分の身になるだろうなと思ったので。いわゆる演奏だけを追求する大学院に進む道もあったんですけど、そこよりかは、演奏も追求するんですけど、他の分野のもっといんなことを学びたいという気持ちもあって、大教大の大学院に進学しました。

— 演奏の幅も広がりましたか。

先生 もちろんそうですね。美術関係はもちろん、書道の人たちからいろんな話を聞いたりということはそれまでなかったの。歴史の話や美術の人たちの表現の幅、筆だけじゃなくていろんなものを使ったりするところからインスピレーションを得たりもしました。音楽だけを追求することはもちろん、それはそれで魅力的だったんですけど、大学院へ行って本当にいろんな人たちに触れられてよかったなと思います。

— そこへ行かずに就職となると、まだまだちょっと自分ではもの足りないですか。

先生 そうですね。音楽の演奏の道で食べていこうと思っていたので、大学を卒業してそのまま演奏家の道に行けるかと言われたら、やっぱりもう少し学ばないといけないなという気持ちもありました。

— また、大学時代から教員免許は取られていたので先生っていう道も考えておられましたか。

先生 やっぱりそうですね。一応。高校の進路変更した時に音楽の恩師の言葉に、男性なんだから、資格の一つぐらいいは取っておいた方が何かあった時に役に立つから、教員免許だけは取りなさいと、それを約束させられたのが今ここに繋がっています。

— ずっと音楽の話ばかり聞いていますが、音楽以外でなにか趣味みたいなものは。

先生 音楽以外の趣味。そうですね。もちろん読書も好きですし、映画を見ることも結構好きですね。映画は映画音楽との関連もあるので、そういうところでも好きなんです。これは六甲と繋がってるなというのは、ボーイスカウトに中高を含めて6年か7年ぐらい入っていたので、キャンプに行ったり、ハイキングに行ったりというのももちろん好

きですし、社会奉仕の活動、募金活動をやったりというのは、中高の時代にたくさん経験していました。深く一つのことを追求して、これが趣味ですというのはないんですけど。音楽は仕事であり、自分の好きなものでもありますよ。

— ご家族のことを教えてください。

先生 結婚をして、今は妻と昨年生まれた息子と3人で西宮の苦楽園に暮らしています。妻は苦楽園で生まれ育ったんですけど、地車と関わっていて、その誘いを受けて、私も多田さんと同じ地域の青年会の活動に参加させていただいています。夏祭りなどで地域に貢献するいろんな活動であったり、地域の子供たちのために何かしたりするということも一緒にやっていますね。

— 息子さんは1歳ですか。

先生 もうすぐ1歳半です。歩くのが早くなって大変です。

— 奥さんも音楽関係ですか？

先生 そうですねヴァイオリンを。

— 息子さんに音楽は？

先生 それはあまり考えてないですね。好きになったらもちろん後押しをすると思うんですけど、息子が好きになったものを頑張ってくれたらそれでいいんじゃないかなと。

— それでも耳にする機会は多いんでしょうね。

先生 他の子に比べて両親ともに音楽に携わってるので。

— 現在六甲に来られて、仕事内容でいうとどんなことをされてますか？

先生 授業は中2から高2まで、4学年の音楽の授業を担当しています。2年目から担任をさせていただいて、中2、中3とそのまま持ち上がっているところです。1年目は訓育の補佐をしていまして、去年は社会奉仕、今年は視聴覚の業務などをさせていただいています。山の引率やスキー実習の引率なども行かせていただいて、今年はインド訪問の引率が予定に入っていまして。本当にたくさん経験をさせてもらっています。クラブ顧問は音楽部を1年目からしています。

— ちょっと話が戻って、お勤めになったきっかけは何ですか？

先生 本当にご縁があってなので裏で誰かと繋がっていたとかは全くなくてですね、六甲が出していた音楽教諭の募集に対して、私が応募させていただいて、そこからですね。

元々いらっしゃった小原先生はホルンの専門なので管楽器の繋がりはありますが、他の先生方と繋がっていたということはありせん。結婚が決まってから西宮に移っているんですけども、決まる前に住んでいたのが六甲だったので、やっぱりこの界限に戻ってくるのもすごくいいなとは思っていました。

コロナが一つきっかけというのももちろんありましたね。実は30歳の時に西宮の芸文小ホールでリサイタルをやったんです。300人ぐらいのお客さんを集めて、自分の

30歳の誕生日に記念のリサイタルをさせていただいて。そこが一つ区切りというか、そこをきっかけに今後どうするかということを決めていこうと思っていたんです。

それがコロナが中国で流行り出した時期とぴったり重なって、1月のリサイタルが終わった直後ぐらいに。演奏会がストップして外に出られなくなって、いろんなことが起きてきたタイミングで、このまま演奏活動が続けていって家族を養っていけるかどうかということももちろん考えました。教員免許も持っていて、教えることも好きだったので、教員の道に行きなさいというお告げだったんですかね。

— なるほど。

先生 そのタイミングで、たまたま六甲が募集をかけていて、応募させていただきました。その次の年からですね。

— 井阪先生とも繋がってた。

先生 いいえ、井阪先生とは繋がってはいなかった。決まってからですね。

— 小原先生からはこんな学校やみたいなことは聞いたりは？

先生 面接の時にはそこまで深い話はおそらくしてなかったと思うので、決まってから色々と聞きました。

— イメージは受ける前からありましたか。

先生 受ける前はですね、本当に進学校というイメージが強かったです。私自身中高は公立ですし、私学に行った経験もなく、男子校の経験もなかったもので、未知の世界というか、こんな学校だなんていうことを思っていたわけではなかったですね。

— 地元でもそんなところですか？

先生 そうですね、イメージは賢い子たちが行くだろうということです。小学校の友人が1人六甲にいたんですけど、その子もすごく勉強を頑張っていて、六甲に入ったイメージがあったので、勉強のイメージが大きかったですね。

— で、いざ来ました。1年目から訓育ね。最初訓育ってどういうイメージでした？

先生 最初に伝えていただいたんですけど、実感としてあまりわからなくて、どんなふうにしたらいいのかというのは1年間悩みましたし、3年目になってようやく訓育とはこういう感じなのかなということがなんとなく掴めてきました。今までの経験で言うと、生徒指導は先生から教えられるというイメージが強かったので、訓育のイメージはなか

なか掴みづらかったですね。例えば生徒自身に考えさせる、内省をさせるということで、そこに時間を使うというのは今自分自身で担任をしていて実践してる場所ですね。

— それ以外に、六甲の面白い特色のようなことはありませんか？

先生 特色は男子校というのが僕自身が経験なかったもので、みんな仲良く楽しく学んでいる場所だなということを感じますね。縦の繋がりの良さというのはOBの方々を見ていると思いますし、クラブを持ってる音楽部に関してで言うと、家族みたいな関わり方を上級生から下級生までしているの、そこは六甲の本当にいいところだなと思いますね。

— 六甲生は猛勉強で真面目なイメージがあったと思いますが、六甲生自体の印象もちょっと変わりましたか？

先生 そうですね。ガラッと変わったと思います。電車に乗っても、本を開いて読んでもとか、そういうイメージが強かったので、グラウンドでみんな走り回って遊んでいるなど、体を動かしてる様子や授業の内容とか、外から見るときは想像ができませんでした。

— 授業の内容や特色はありますか。

先生 ここはまだあまり出せてないので、これから作っていきたいなと思って試行錯誤しているところです。質問のメールに、音楽は本田先生の印象があったと書いていらしたんですけど、私がそれを知りたいぐらいで。どんな授業をされていたんですか。

藤原 僕は中2まででしたので、まだましだったらしいですけど、昔はすごい暴力的で。

山岸 40期でも暴力的ではなかったです。もっともっと昔だったんですよ。

藤原 創作の授業があったようです。あと特徴的だったのが、3学期は必ずイントロクイズなんですよ。それもクラシック。テストまであった。学年末考査がそれなんで。でもおかげで今でもくるみ割り人形全曲わかるし、ベートーヴェンの交響曲わかるし、すごい授業やったなと思います。

先生 なるほど。社会に出てからね、その教養として。

— 教養としてのクラシック音楽はあの時に身につきましたね。

先生 いろんな先生方が生徒たちに伝えてる言葉の中で、君たちは社会のリーダーになると言う。そういう人たちに何を音楽で伝えたいかということを考えた時に、いろんな

井尻整形外科

JR 垂水駅北、レバンテ垂水1番館2階

院長 井尻慎一郎 (32期)

TEL (078) 704-5055, FAX (078) 704-5066, URL: <http://ijiri.jp>

有限会社
アークスコーベ
一級建築士事務所

32期

石丸信明

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-2-23 アークスビル

Tel 06-6136-1070 Fax 06-6136-1071

ishimaru@arxkobe.com <https://arxkobe.com>

楽しみ方を知ってほしいというのと、音楽を好きになってほしいということを思っていて、かなりたくさんの方をやっていきます。ちょっと前はコロナでなかなか歌えなかった時期があったんですけども、歌の授業もしています。楽器もリコーダーだけではなくて、昨年からギターの授業を導入して、レンタルと購入した分で2人に1本ぐらいに渡るようにしました。今年は1ヶ月だけなんですけど三味線も。日本の楽器にも触れてほしいなと思ってるので、レンタルをしてみんなに触ってもらうという取り組みも増やしています。

— 授業楽しそうですね。

先生 そうですね。リコーダーも小学校時代にコロナで経験できなかった生徒たちがたくさんいるので、楽器をやるっていうのはだいぶ刺激になるし面白いみたいで。得意な生徒とか、好きな生徒は元からやっていたりするので、そんな生徒には一緒に教えてもらって、前で弾いてみてよとか、そんなことをやりながら、楽しく器楽をやってますね。もちろん、クラシックの曲も鑑賞だとか、オペラやミュージカルも、部分部分だけなんですけれども。せっかく音楽室に素晴らしいスピーカーと大画面のスクリーンがあるので、フルに使ってオペラ、ミュージカル、クラシックの鑑賞の授業もやっています。高校生は、選択の音楽の授業なんですけども、西洋音楽史の授業もやっていて、世界史を取ってる生徒とは、教科横断的に、この時代には音楽ではこれがあってとか、こんな歴史背景があるから作曲家がこんな曲を書いていたというところで、自分たちが勉強しているものとの関わりにも触れていますね。

— 面白そうですね、勉強したいですね。

先生 六甲生は基本的に大学進学を目指してる子が大半という中で、そういう芸術科目への向き合い方みたいなのところも、もっと大切にしてほしいというか、多分社会に出たらやって楽しかったなっていう子たちがたくさんいるだろうから、楽しんでもらう授業をしたいなって思ってますね。私自身も大学を卒業していろんな場所で演奏する中で、お医者さんのオーケストラとか、そういうところにも関わったことがあって、やっぱり教養がある人たちが、いろんなことを知ってる人たちは魅力がありますし、いろんなお話ができますよね。音楽を学ぶことが心の豊かさに繋がってるなっていうのも、そういう人たちから話を聞いて感じるの、そういった面でも授業を楽しんでほしい。

なかなか芸術科目が得意じゃない生徒も多いですし、興味を持たない生徒もたくさんいるんですけど、そこは私としても卒業してからでも、もっと楽しめる方法があるんだよっていうのを手を替え品を替え伝えています。

歌が苦手な子は楽器やったり、歌も楽器も苦手な子は鑑賞だけでも、どこかしらで音楽と接点を持っていたほしいなって。あとは、5教科などの座学の授業ではできないことも意識しています。

実技試験をする時に、例えば部屋に入ってくる瞬間に「お願いします」って言えたりだとか、そういう、礼儀の部分というのもできる限り伝えるようにはしてるので、卒業してから、そういえば音楽の授業でやってたなと思ってくれたらいいなと思って。

— STEM教育にArt（芸術）を加えたSTEAM教育に関連して、その中でAの重要性が強調されることについて、何か中村先生の考えがあれば。

【注：STEAM教育とは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学・ものづくり）、Art（芸術・リベラルアーツ）、Mathematics（数学）の5つの単語の頭文字を組み合わせた2000年頃からの教育概念】

先生 そうですね。もちろん重要性は高まってると思うんです。何かって言うと人間らしさ、機械ではできないところに対しての重要性なんじゃないかなっていうのは思ってるんです。もちろん、AIが台頭してくる世の中で、人間が美しいものを美しいと感じる心であったり、機械的なことだけではなく、こんなことをやってみたいと思う気持ちであったり、そういうことを思ったり考えるためには、いわゆるアートの重要性があるんじゃないかなと。

— ですね。

先生 生徒目線で見ると、どうしてもただ楽しいことをやりたいって思ってしまうみたいなんです。歌の授業やっても、知ってる曲を歌いたいとか、聞いたことある曲をもう1回聞きたいって言われるんです。あとは、エンターテインメント性が強いものに対して、すごく興味が湧いてくるみたいですね。でも、知らないことを知っていく楽しさだったり、こんなのも美しいなっていうことを学べたり、そういうことができれば、STEAM教育のアートに繋がっていくんじゃないかなと思います。以前からですけど、リベラルアーツ、教養としてというところは、大学院時代に教えられた部分でもあるので、そこでいろんなこと探求することであったり、分野が違うものと意見を共有することも含

社史・自分史等編集より承ります。

(株)学術出版印刷

〒554-0022 大阪市此花区春日出中2-14-9

代表取締役 **近藤 健** (32期)

TEL (06) 6466-1588, FAX (06) 6463-2522, E-mail: kondou@mxt.mesh.ne.jp



やまだ整形外科クリニック

〒651-0065 神戸市中央区割塚通7丁目2-1 コンフォート春日野2階

院長 **山田 博** (32期)

TEL (078) 262-6780, FAX (078) 262-6786

めて教養としての音楽というのを私自身が大事にして授業をやっていききたいなと思ってますね。

— 今まで音大志望の生徒はいましたか。

先生 私が教えた中ではないんですけども、小原先生から引き継いで数年に1回ぐらいは出ることがあるよということを聞いています。もちろん私自身がチャレンジしていた道なので、厳しい世界だということは、第一声で伝えることにはなるんじゃないかなと思うんですけど、それでも行きたいということであれば、生徒の意思を尊重しようと思っています。私自身がプロの音楽家として活動していた時期に、本当に関西圏のいろんなプロ奏者との人脈を作っていたので、そういったところは活用して、もし行きたいという生徒が現れたら、背中を押してあげられるんじゃないかなと思っています。おすすめはしないですね。

— 反対もしない？ 教員免許取れるもんなんですか？

先生 多分取れないところはないと思います。教育の授業が必ず併設されてるので、音大に行けば教員免許は取れるはずですよ。授業によりプラスして単位を取らないといけないので大変ですが……。

— その子の素質について、ご飯食べれるようになるレベルかどうかであると思うんですね。その辺は見ればわかるものですか？

先生 専門の分野であれば、管楽器であれば、おそらくやっていたものを聞いて分かる部分は大きいんじゃないかなと思いますね。私自身が音大で過ごしていた時期に同級生たちの演奏はもちろん聞いていたので、どういうレベルだったとか、どういう感性を持っていたらその場所にいるかというのはわかると思いますね。ただ、音大に行ったとしても、演奏だけで食べてる人たちって1割もない。

— うん。厳しいですね。

先生 はい。年を重ねれば重ねるほど、続けてる人数は少なくなってくるので。そういうことは全て伝えた上で、それでも行きたいかと。

— そうですね。

藤原 仕事ですけども、私は高1の時に担任だった岩下先生から、まさか音楽に行こうと思ってないよねって。

先生 行きそうな感じだったんですか。

藤原 ピアノをずっとやってました。今でもやってますので、一応確認されました。

先生 ピアノ好きな生徒は多いですね。

藤原 そうでしょう。

先生 小学校時代から習っていたという生徒もたくさんいますし、授業の間にピアノ弾きに來ますよ。

— 今アトリウムにストリートピアノがありますよね。結構弾いてるんですか。

先生 色々事情があって、去年の暮れぐらいから一旦閉じてるんですけど。でも、弾ける時期は昼休みには誰かが弾きに來ていましたね。その周りに中学生とかがわらわらとあれ弾いてーやこれ弾いてーやって言って。

— 諸事情ですか。

先生 でも楽しんでた生徒がいたので、復活はしたいなと思ってるんです。

— 音楽部出身の宇都宮さん、久保さん、何かありますか。

音楽部OB 僕は音楽部の出身なので、音楽部の指導方針を。これからどんな方向に向かうのか聞きたいな。音楽部ができた当初はマーチングバンドのイメージが強かったんですよ。

先生 ああ、そうなんですね。

音楽部OB 今みたいなシンフォニックのイメージではなかったから。今後どうするのかというのを聞きたいですね。先生の影響が大きいと思うんで。

山岸 以前は体育祭で、フィールドプレイとかね、歩いてましたからね。

音楽部OB 今の総行進じゃないけども、午前中にありました。部員が減ってるから難しいかな。コンクールとかそういうのを狙うクラブもありますね。

先生 そうですね。コンクールには去年から出場しています。狙えるか狙えないかっていうのもあるんですけど、賞を狙うのが目的ではなくて、やっぱり広い世界を知ってほしいなという思いがあります。小原先生時代は六甲の中でいろんな活動をしていたというのをお聞きしてるんですけども、もっと外部との関わりであったり、外に飛び出していった演奏する機会を増やしてあげたいなと思っています。そのためにコンクールにも出てみて、同じように楽器をやってる子たちがどんな演奏をしたりとか、どういう技術のレベルでというのは知ってもらって。去年初めてコンクールに出てみて、やっぱりうまい学生もたくさんいて刺激になったと。自分たちももっと頑張りたいという声もたくさん出たので、継続していききたいなと思っています。ただ、一番最初に言ったんですけど、家族みたいな、本当

高 端 歯 科

〒657-0065 神戸市灘区宮山町3-3-29 六甲ヒルコート102号

高端泰伸 (33期)

TEL (078) 871-6545

足立優歯科・神戸デンタルドックセンター

〒658-0072 神戸市東灘区岡本1-3-33

院長 足立 優 (36期)

TEL (078) 411-0024, FAX (078) 411-0056

URL: <https://www.adachi-dental.jp> E-mail: info@adachi-dental.jp

にフレンドリーな部活だなということをまず最初に思っていたので、コンクールで勝つためにとか、技術だけを追求してっていう方針にはあまりしたくないなとは思っています。吹奏楽のいいところは、行進曲もできて、もちろんオーケストラの編曲ものもできて、ポップスも演奏できる。いろんなジャンルの曲に触れるので、いろんな曲を体験してもらって、自分の楽器を通して音楽の授業同様に音楽を好きになってもらいたいな、と。

— マーチングはやりますか。

先生 私も中学時代に体育祭の昼休憩の時にマーチングを披露していたので、時間があればやりたいですね。ただ、週3日の練習時間で、生徒たちがマーチングをできる時間がどれくらいあるのか……。もっといろんなことを考えて効率よく練習していかないとできないだろうなと思っています。

山岸 だから体育祭まで毎日、体育祭練習が終わってから10日間ぐらいぶっ通しで音楽部は練習をやっていた。なかなか難しい。諸般の事情もあり。

先生 部活動自体は六甲だけじゃないですけど、他の学校でも時間的な制約がある中で、取捨選択していかないとイケないのかなということを感じています。

— 先生は、トランペット奏者として練習はどうなさっているんですか。

先生 現在は正直に言うと、あまり練習できてないですね。やはり担任業務に慣れるまでは、なかなか時間は取れないんじゃないかなと思ってます。でも、せっかくの環境で、音楽室ももちろんあるので、空き時間に楽器を吹いて、それを生徒たちに還元したり、演奏を聞かせてあげたりとか、そういうこともやりたいなと思ってるので、仕事の前後に練習ができればいいなと思っています。せっかく自分のやってきたものではあるので、演奏活動も続けて、自分のトランペットの技術を保っていききたいなと思ってます。

— 伯友会や六甲OBに、何かおっしゃりたいことがあればどうぞ。

先生 生徒たちに代わって感謝を伝えたいです。OB講演会であったり、卒業生の活躍をいろんなところでお聞きしたりというのは、六甲の大きな財産だと思います。おそらく六甲にいるうちはそれが当たり前だった生徒たちが、卒業して、それを感じると思うので、いろんなところでぜひ活躍をしていただいて、それを講演会や、いろんな企業訪

問の時に生徒達へ還元いただけたらなと思います。

— 音楽部の活動を我々が見られる機会はありますか。

先生 そうですね、定期演奏会は毎年年度末の3月下旬に行っていますので、ぜひ足を運んでいただけたらと。演奏会は変わらず生徒たちがメインで作っているの、私もちろん指揮はしてるんですけども、基本的にプログラムを考える等の大部分は生徒に任せて、生徒主体で演奏会を作っています。そんな頑張りをぜひ、引き続き見守っていただけたらなと。

— 私学ならなのかリーダーを育てるっていう方針が動いていて、そこに音楽教諭として何ができるのか。音楽っていうのは一般の教養として大事なもので、その素晴らしさを生徒に身につけてほしい。音楽の授業っていうのは必須ですか。僕らの頃は美術か、音楽が選択だったんですけど。

先生 中学校3年生までは必修で、高校は音楽科、美術科の選択になってます。割合は、ちょうど半々ぐらいですね。

— 特に調整は。

先生 よほど偏って3分の2と3分の1とかになると、授業的にはあまり良くないのですが、ここ数年はそういうことにはなってないです。

— 音楽が多いとかでセクションありましたよね。

先生 多分その方針は本田先生の頃のおそらくセクションだと思います。

— 今はそんなんやってない？

先生 今はやっていません。当時は高校生で歌の授業がかなりあったんじゃないですかね。本田先生の時は、歌えないと勉強にならないよっていうことでセクションになったと聞いています。歌が苦手な生徒でも、音楽をとりたければ西洋音楽史とか、鑑賞とか、器楽（リコーダー、ギター等）とか、それぞれ他のところで頑張ってくれたらと思うのが私の方針ではあるので、歌が歌えないから音楽はダメっていうのは、ちょっとかわいそうかなと思ってます。歌の試験をすると、とんでもない生徒ももちろんいますけど、そういう生徒は自分で苦手なことがわかってるので他の部分で頑張ろうとしています。

— はい、そうですか。お時間もちょうど1時間になりました。どうもありがとうございました。

先生 こちらこそ、学校まで来ていただいてありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

神戸駅前法律事務所

〒650-0027 神戸市中央区中町通2丁目2番17号 武田ビル5階
弁護士 佐藤功行 (41期)

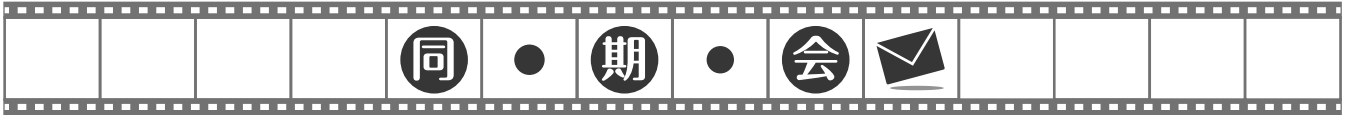
TEL (078) 381-7612, FAX (078) 381-7591
E-mail: yoshixbb@gmail.com

ポートピアホテル

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-10-1

代表取締役 中内 仁 (42期)

TEL (078) 302-1111, URL: <https://www.portopia.co.jp/>



各期の同期会の報告をお待ちしております。その際、なるべく楽しい写真を添えていただければ幸いです。開催日及び場所を記載していただく以外は、特に字数制限はありません。また「伯友」は春と秋号2回発行しておりますが、「同期会だより」は秋号のみ掲載します。場合によっては開催日と掲載が1年以上隔たる場合も生じますが、ご了承ください。

「伯友」誌には、学年・開催日・場所・参加者・写真のみの掲載となります。ホームページの伯友会オフィシャルサイトには寄せられた報告の全文を随時掲載いたしております。

● 13 期 ●

◆13期同期会



開催日：2023年10月16日（月）13：00～

場 所：三宮 西村屋（和味旬彩）

参加者：五百旗頭邦夫、小川 昇、久島環六、河野定男、
塩野文三、清水宏計、角田嘉宏、瀧本重利、
田嶋 薫、友藤順義、中野良夫、中村圭佑、
樋上 實、古市 守、三池 隆、村上則一、
森田光一、山崎暢郎、余田光男 （19名）

※詳細は、HPをご覧ください。



◆関東懇親会



開催日：2024年5月10日（金）13：00～15：30

場 所：東京有楽町（東天紅・国際フォーラム店）

参加者：余田夫妻、中村、池本、藤田、三池、森田 （7名）

※詳細は、HPをご覧ください。



● 14 期 ●

◆14期同期会



開催日：10月25日（水）13：00～

場 所：ビストロプレザン

参加者：正岡、糸原、三科、花木、橋本、五十嵐、川田、
山田、菊井、可児、高田、満野、元川（13名）

※詳細は、HPをご覧ください。



● 20 期 ●

◆むとせ会傘寿の集い（20期同窓会）



開催日：2024年3月31日（日）12：00～14：00

場 所：神仙閣神戸店

参加者：青木、浅井、天野、石井、宇川、後呂、宇都宮、
垣浦、崎元、塩野、下村、杉本、住友、瀬川、高
部、田中猛、谷水、辻、西村良平、萩原、橋本光史、
塙、浜野、船井、本田、前田正勝、山中 （27名）

※詳細は、HPをご覧ください。



● 29 期 ●

◆29期 古希のお祝いの会



開催日：2023年12月10日（日）12:00～

場 所：ホテル竹園芦屋

参加者：磯貝、入江、植田、采見、大島信一、金子、
上村、岸本、北村、芝山、滝原、田原進、垂井、
堂免、奈須、橋本、藤井則雄、堀尾、松本寛、
丸山、峯野、森田、八木、山田、松本宏、横田
(26名)

※詳細は、HPをご覧ください。



● 33 期 ●

◆33期関東在住者新年会のご報告



開催日：2024年1月13日（土）

場 所：赤坂飯店パレスサイドビル店

参加者：飯尾、今田、太田、小野、神部、杉田、辻井、
中村(祥)、永尾、仁熊、沼田、浜田(俊)、平戸、
藤井、藤谷、松田(孝)、三木、宗清、桃谷、
山口(明)、鷺尾
(21名)

※詳細は、HPをご覧ください。



● 37 期 ●

◆37期同期会「もみぢ会」



開催日：2024年1月3日（水）13:30～16:00

場 所：海鮮居酒屋「市場すし駅前」六甲道店

参加者：古泉先生、栗飯原、伊藤(健太郎)、井上(和重)、
大津(橋村)、大橋(一朗)、岡田(達志)、小澤、
嘉納、加納、河村、金道、日下部、車谷、河野、
塩谷、島、島田、清水(大資)、関根、高橋、
田村(匡)、辻村、東郷、南部、平井、
福島(秀樹)、藤尾、村田、吉田(篤)、吉村
(30名+先生1名)

※詳細は、HPをご覧ください。



● 50 期 ●

◆50期2024年新年会



開催日：2024年1月2日（火）18:00～20:00

場 所：洋食屋神戸デュシャン

参加者：西村宣、山本浩、山本拓、藤枝、谷尻、舟橋、
阿南、山東(陳)、木村佳、坂森、川西、大西、
富田、鳥山、大原重、宇田、藤原、矢寺、小川正、
本庄友、片岡、瀬良、青田、松永、浜本、大槻、
蓬萊、善野、芝吹、東田、飯田、山崎壮、白川、
古結(46期)、足立(46期)、寺川(56期)
(36名)

※詳細は、HPをご覧ください。



支 部

● 伯医会 ●

◆第29回六甲伯医会懇親会



開催日：2024年6月15日（土）

場 所：Santo Bevitore

参加者：21名

※詳細は、HPをご覧ください。



● ロサンゼルス伯友会 ●

◆ロサンゼルス伯友会懇親会



開催日：2024年2月3日

場 所：Sea Empress Seafood Restaurant
（ロサンゼルス郊外ガーデナ市）

参加者：左から（敬称略）

42期 森下秀明、76期 安田航一朗、60期 寺岡亮人、
60期 高端恭輔、35期 陳敏生、15期 藤野秀樹、
41期 牧野明久 （7名）

※詳細は、HPをご覧ください。



KKO HIGH SCHOOL クラブOB会 KUYUKAI

● 山岳部 ●

◆2023年度 六甲学院山岳会総会報告

開催日：2023年10月29日（日）

場 所：長峰墓地・愛蓮

参加者：12名（12期～34期）



※詳細は、HPをご覧ください。



● 陸上部 ●

◆陸上競技部OB会報告2024

開催日：2024年1月2日（火）19:00～21:00

場 所：錦 三宮本店

参加者：15名

村上（顧問）、山本（31期）、長野（42期）、
西本（42期）、松本（42期）、古田（42期）、
松尾（56期）、向畑（65期）、稲葉（75期）、
大池（75期）、小幡（75期）、尾上（77期）、
秋吉（79期）、井畑（79期）、北島（79期）

（敬称略）



※詳細は、HPをご覧ください。





OB講演会

OB講演会

ニューヨーク在住建築家の日々

瀧浦 浩氏 (39期)

7月16日(火) 学校でニューヨーク在住の瀧浦浩先輩(39期)が講演会をして下さいました。先輩がご自身で建築事務所を経営なさったり、大学院で後進の指導に当たられたり、建築家協会のお仕事をなさったり、日々精力的に活動なさっておられます。

コロナを挟んで数年、3月に行われている六甲学院ニューヨーク研修の際には、OB交流会で生徒たち向けにお話しして頂いたり、ニューヨークの先輩の事務所を訪問させて頂いたこともありました。今年3月48期石崎と60期鈴木がニューヨーク研修引率の折、「一時帰国された時には学校にお越し下さい」と先輩とお話ししていたのですが、6月に「来月一時帰国するので、この前の企画、実施しましょうか?」とご連絡頂き、講堂のような大きなところで

一斉に向けてではなく、積極的に聴きたい生徒だけを集めて小さいながらも密度の濃い集いにしよう、ということになりました。

当日は事前に申込をした中1から高3まで32名が参加し、先輩から普段アメリカの大学院でお使いの内容を中高生向けの日本語に置き換えてお話しして下さいたり、関係性を作るゲームを行ったりと、予定の16時を一時間ほど越えて17時に解散しました。

その後一部の生徒は下校すべき時間を越えて18時過ぎまで、小さい部屋に移動して先輩に質問したりしながらとても有意義な時間を過ごしました。

参加した生徒たちは、全員が海外留学するわけでもないですし、全員が建築の道に進むわけでもないですが、先輩から頂いたメッセージを自分のものにし、これからの中高生活や人生の力になるものを得ることができました。

瀧浦先輩に限らず、いろんな先輩が在校生のことに心を向けて下さり、献身的に動いて下さることに感謝しかありません。今後とも宜しくお願いいたします。

(文責 48期 石崎裕二)



iCRAFT
アイクラフト株式会社

〒650-0034 神戸市中央区京町 83 番地
三宮センチュリービル 13F
TEL(078)391-2900 <https://www.icraft.jp>

代表取締役

情シス アイクラフト

山本 裕計 (43 期)

森一産業株式会社

〒550-0012 大阪市西区立売堀 5-4-40

代表取締役 渡辺喜弘 (44 期)

TEL (06) 6541-2271, FAX (06) 6541-2302

行政書士鈴木聡事務所

代表行政書士 鈴木 聡 (48 期)

TEL 080-9753-1753

E-mail: suzuki304gyo@yahoo.co.jp

非鉄金属

ワイメタル株式会社

〒675-1122 兵庫県加古郡稲美町中村 1216

横山央祐 (49 期)

横山洋介 (55 期)

TEL (079) 492-7314, FAX (079) 492-6599

トピックス

■フリン先生を偲ぶ会

2024年2月4日（日）11時から四ツ谷イグナチオ教会地下墓地にて、28期瀬本神父様の司式で「フリン先生を偲ぶ会」のミサを無事行う事が出来ました。

23期、29期、35期、41期で総勢32名の会となりました。



※詳細は、HPをご覧ください。



■伯友会ジュニア2023年度第3回開催！



開催日：2023年11月2日（木）18:30～

会 場：灘寿司（阪急岡本駅近く）

参加者：48期 上野、

50期 東田・山本（浩）・青田・藤枝・藤原、

52期 井原、56期 小松原、58期 石原、

59期 金、60期 室井（写真撮影後参加）、

65期 中上 （12名）

※詳細は、HPをご覧ください。



■36期 森川雅浩氏 寄稿

森川雅浩氏は現在もCharlottesville, Virginiaにある University of Virginiaのfamily medicineで診療、臨床教育、国際保健活動を続けてられています。



UVA Medical Center office
にて（2023）

神戸サン司法書士事務所 神戸サン相続遺言相談所

〒650-0031 神戸市中央区東町116番地の2 オールドブライト4階

司法書士 **渡邊三郎**（49期）

TEL (078) 333-0088, FAX (078) 333-0038
E-mail: watanabe@westkobe.com

MSC 株式会社 MSC

〒559-0031 大阪市住之江区南港東2-2-2

代表取締役社長 **稲垣 潤**（54期）

TEL (06) 6612-8700, FAX (06) 6612-8702
URL: <https://mscnet.jp/> E-mail: inagaki@mscnet.jp



グアテマラで最も乳幼児死亡率の高いマヤの子供の健康プロジェクトに参加 (2006)

※詳細は、HPをご覧ください。



■武宮先生の記念イヤーに向けて

古泉肇 (30期)

1957年8月東京で開催されたイエズス会の中等教育に関するセミナーにおいて、武宮先生は「イエズス会学校はどのような生徒を育てたいかという明確で具体的なコンセプトを持つべきである」と講話のなかで述べておられます。この武宮先生の想いは、セミナーに日本管区長として参加し後にイエズス会総長になったアルペ神父の世界のイエズス会学校の教育目標である「MAN FOR OTHERS」という言葉、そして六甲学院の「六甲生のプロフィール」として実現しています。

六甲学院がプロフィールを作るにあたり「イエズス会教育の特徴」という文書を参考にしましたが、六甲精神についてはその全体像を明確に示した文書が無く、参考に来ませんでした。後になってプロフィールに書かれている内容が六甲精神を土台としていることが分かりました。その時の経験から私は「六甲精神とは何か」ということを一度きちんと文章化する必要があると考え拙著『六甲学院誕生物語 高みをめざして～六甲精神の源を探る～』を書き著しました。

六甲精神の土台にあるのは「武宮精神」です。ですから私は『高みをめざして』の本の中で、武宮先生の人物像、特にその全体像を書かなければいけないと考えました。し

かしながら、六甲学院校長時代の武宮先生の姿は学校に資料があって書くことが出来ましたが、先生の幼・少年時代から校長に就任するまでの期間、校長を退職してから帰天するまでの晩年の先生の様子は手元に十分な資料がなく書けませんでした。

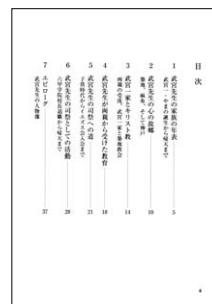
この度、武宮先生が受洗した築地教会に幼・少年時代の武宮一家の資料が残されていることがわかり、「高みを目指して」(補遺)という小冊子に先生の幼・少年期、晩年の様子を書くことが出来ました。こうして先生が帰天されて45年後にやっと武宮先生の人物像の全体が明らかになったと思います。

2025年は武宮先生の生誕125年の記念イヤーです。

明治・大正・昭和という激動の時代を生きた武宮先生の生涯を知ることで、現在の私達は「どう生きればいいのか」その問いに対する答えが得られるのではないのでしょうか。拙著『高みをめざして』を通じて多くの人に武宮先生の精神を知っていただければ幸いです。

『高みをめざして』(2022年版)は10月現在既に在庫がありません。そこで記念イヤーにあたる来年には『高みをめざして』(改訂版)と『高みをめざして』(補遺)を新たに印刷・製本して皆様にお届けしたいと考えています。詳細が決まりましたら来年度、伯友会HPなどでお知らせいたします。

六甲学院誕生物語 高みをめざして～六甲精神の源をさぐる～



購入受付

A5判 247ページ

2022年3月19日発行

編集・著者：古泉肇 (こいずみはじめ)

六甲国際ゴルフ倶楽部

〒651-1263 神戸市北区山田町西下字押部道15番地

取締役副社長 加藤 敏 (62期)

六甲国際ゴルフ倶楽部 TEL (078) 581-2315 六甲国際パブリックコース TEL (078) 583-0351
URL: <http://rokkokokusai-kobe.jp/> E-mail: s.kato@rokkokokusai-kobe.jp

メディア ● TV放送 ●

■野球部

祝！令和6年度春季近畿地区高校軟式野球大会(2024春)
兵庫県大会準優勝

日時：2024年7月31日（水）10時試合開始

場所：神姫バスケットスタジアム

<決勝>六甲学院VS育英(サンテレビ)

[https://www.youtube.com/](https://www.youtube.com/watch?v=DqrgLqfHz5Y)

[watch?v=DqrgLqfHz5Y](https://www.youtube.com/watch?v=DqrgLqfHz5Y)



■【六甲学院】有名私立中学受験ナビ2024（兵庫版）

放送日：2024年8月17日（土）19時30分～21時22分

サンテレビにて放送

[https://www.youtube.com/](https://www.youtube.com/watch?v=-JSFLg86HRM)

[watch?v=-JSFLg86HRM](https://www.youtube.com/watch?v=-JSFLg86HRM)



書籍紹介

『いのち果てるとも（申命記・下）』

著 者：大頭眞一（36期）

出版社：ヨベル

価 格：1,100円＋税

内容（帯の記載）：

嗚呼、かくも人間臭い神さまと共に、世界の破れを繕っていけ、だなんて！ 神に愛されていないのでは…と悩み苦しむ現代人に向かって「私もあなたに愛してほしい」と、妬むまでに懇願する聖書の神を指し示してきたパスター・オオズ。人一倍の渴愛ボクシだからこそ(?) 感得できた申命記の〈読み〉も最終章へ！ 全8巻完結！

（大頭眞一 記）



『牧師・大頭の『焚き火』日記』

著 者：大頭眞一（36期）

出版社：キリスト新聞社

価 格：1,300円＋税

内容（帯の記載）：

「牧師の仕事は、楽しい」人に出会い、話を聞き、聖書を語り、祝福を祈る、ただそれだけにとても奥が深い。日本が知らない聖職者のリアル。

ゆるゆると流されているようで、何かに導かれるようなひとりの男の物語。



『聖化の再発見 ジパング篇』

編著者：大頭眞一（36期）

出版社：ヨベル

価 格：1,700円＋税

内容（帯の記載）：

「先生の周りでききよめで困っている人というのはあるでしょうか」えっ、いきなり、そこですか?!こちらがたじろく直球でズバズバ切り込み、現代に生きるキリスト者の聖化（きよめ）の問題を生活の最前線で解明せんと欲す。

好評を博した『聖化の再発見』を日本に根づかせる希望の模索が〈ジパング篇〉へと結晶。



『ルポ 宗教と子ども：見過ごされてきた児童虐待』

著 者：藤田 剛（54期）

出版社：明石書店

価 格：2,000円＋税

内 容：

発端は記者たちの悔いにあった

宗教は何のためにあるのだろう

う。救いのため、善き人生のため、己や世界の成り立ちを知るため——さまざまな答えがありうるだろう。

ただ、それは自らの意思で信じるという行為を前提にしている。誰かに強制されるものを信仰と呼べるのだろうか。

本書は、親の信仰の影響を受けて育つ「宗教2世」の存在、そして信仰に伴う児童虐待がなぜ見過ごされてきたのか、毎日新聞取材班の7人の記者たちが深層に迫ったドキュメントである。2世や1世の証言に耳を傾け、児童相談所や医療機関の関係者と向き合い、歴史の闇に葬られた記録を探す。発端は記者たちの悔いにあった。

2022年7月8日、安倍晋三元首相（当時67歳）が参院選の応援演説中に銃撃されて死亡した。殺人罪などで起訴さ



れた山上徹也被告の母親は旧統一教会（世界平和統一家庭連合）の熱心な信者で、教団に1億円を献金して自己破産した。

奈良県内でも有数の進学校を卒業した山上被告は、生活苦から大学への進学を諦めた。海上自衛隊に入隊後、自殺未遂を起こして退職し、以降は職を転々としていた。

「オレが憎むのは統一教会だけだ」SNSに投稿した内容は教団への憎悪に満ちている。その半面、家族への複雑な感情もうかがえる。「オレは作り物だった。父に愛されるため、母に愛されるため、祖父に愛されるため」「オレは努力した。母の為に」――。

取材班は毎日新聞大阪本社を拠点としている。事件が起きた奈良市の現場は電車で1時間もかからない距離だ。「なぜ彼の存在に気付かなかったんだろう」記者たちはそのことが気になっていた。

深く残る傷痕

私たちが取材した宗教2世の多くは、信仰を離れてからもトラウマに苦しんでいた。精神の深い場所に残った傷痕は容易には消えず、家族との関係が断絶している人も多かった。2世たちをどうケアするか考える上で、参考になるのはオウム真理教の事件だ。

1995年3月20日、オウム真理教の信者が東京・霞ヶ関駅へ向かう地下鉄車内で猛毒のサリンを散布し、14人が死亡、6000人以上が負傷した。警察当局は教団施設への強制捜査に乗り出し、4月には山梨県旧上九一色村（現・富士河口湖町）の教団施設など全国の約120カ所を一齐に搜索した。この時、施設内に多くの子どもが親と切り離され、不衛生な環境で生活しているのが見つかった。その後、約110人の子どもが全国各地の児童相談所に一時保護された。

オウム真理教の子どもたちは何を思い、どのように暮らしていたのだろうか。取材班は国や自治体への公文書開示請求、関係者への取材を重ね、当時の記録を入手した。

ある児童は一時保護された児童相談所で、学習ノートに「はやくオウムにかえせ」と何度も書きなぐっていた。ある児童は家族の絵を描けず、家の絵を描くと煙突から火が噴き出していた。児童相談所の職員らが親身になって向き合い、児童らはやがて親族宅などに引き取られたが、マインドコントロールなどの影響は長期にわたり残った。閉ざされた教団施設から社会復帰することの難しさを、多くの記録が物語っていた。

あるオウム真理教2世の女性は「私たちは透明な子どもだった」と話した。教団から離れた後も、誰も助けられず、社会の中に自らの居場所がない孤独を「透明」と表現した。

宗教2世たちは、家族と宗教という二重のブラックボックスの中で「見えない存在」にされてきた。そして今も、どこかで人知れず苦しんでいる子どもがいるかもしれない。「宗教と子ども」の問題に社会がどう向き合うか。本書がその参考となれば幸いである。



障害者差別解消法と実務対応がわかる本 ―改正法で民間企業による合理的配慮の提供が義務に―

著 者：水田 進（56期）

出版社：中央経済社

価 格：2,700円＋税

内 容：本書のメインテーマは「障害者差別解消法」です。この法律は、行政機関等や民間事業者が障害者に対して不当な差別的取扱いをすることを禁止し、また、合理的配慮を提供すること

を求めています。特に「民間事業者による合理的配慮の提供」は2024年4月より努力義務から法的義務に格上げされています。そこで本書では、今回の改正法が求める民間事業者への対応をフォローするとともに、そもそも障害者差別解消法とは何か、不当な差別的取扱いとは何を指すのか、合理的配慮の提供とはどのようなものか、どのような環境整備を企業は求められるのか、などといった障害者差別解消法の内容と同法への実務対応をわかりやすく解説しています。本書が、同法の目的である「全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現」に向けた一助となることを願っています。

【水田 進（六甲56期）】

1980年生まれ。京都大学法学部、同法科大学院修了後、2007年弁護士登録（第一東京弁護士会）。

TMI総合法律事務所パートナー弁護士。介護職員初任者研修課程修了、福祉住環境コーディネーター（東京商工会議所）、医療的ケア児支援者育成研修修了（東京都）。



『こども宇宙科学』

監 修：津村耕司（58期）

出版社：新星出版社

価 格：1,500円＋税

<https://www.shin-sei.co.jp/np/isbn/978-4-405-07382-1/>

内容：身近な地球や太陽系内の惑星

から始まり、銀河やブラックホール、ビックバンまでといった、天文学の内容に加え、ロケットや人工衛星、宇宙飛行士などの宇宙開発に関する話題までをフルカラーで幅広く分かりやすく解説した一冊。

タイトルの通りメインターゲットは小中学生となっているが、宇宙に関する豊富な話題を取り上げており、大人でも十分楽しめる一冊に仕上がっている。（津村耕司 記）



編 集 後 記

■ 自転車の走行記録を見たら、5月末から記録がありません。暑い中を走るのが嫌だっただけです。既に4カ月近く真夏が続いていることになります。会誌「伯友」は毎年この暑い時期に取材・編集をしています。暑い中熱い思いで頑張っている広報委員会の意気込みを感じ取っていただけたらこれに勝る喜びはありません。天気予報によると10月くらいまで暑いようです。日本の四季ならぬ二季に身体を慣らすしかありませんね。(20期 宇都宮光)

■ 「神は乗り越えられる試練しか与えない」というけれど、「でも、こんなの勘弁して!」と言いたくなることってありませんか?私を試しておられるのかも知れませんが、「試しすぎやろ」と。愚痴くらい言っても良いですよ(笑) まあ、結局は周りの人の世話になったり、迷惑をかけたりしながらも、乗り越えないと死んじゃうので、どうにかこうにか生きていますけどね…

少し前になりますが、パリ・オリンピックはみなさん、ご覧になられましたか?夜、仕事から帰ってくると、だいたいどこかのチャンネルで放送があったので、まあまあ観戦しました。やっぱりスポーツは良いですね。彼らの姿に感動させられるし、言葉は説得力がありますよね。

金メダル確定と言われていた選手が負けた後のコメントを聞いて思ったのが、「新しいプライドに塗り替える」ということ。負けることで従来のプライドはズタズタになっているハズだけど、その現実を受け入れて、次の瞬間に新しいプライドを作って、そのプライドを持って次に進む姿を見て気付かされました。そして、あの強烈なプレッシャーがかかる舞台をも楽しむことの凄さ、格好良さを目の当たりにして、教訓にしようと思った大会でした。

スポーツが持つ力を改めて感じつつ、10月から始まるバレーボールの新リーグ・SVリーグ開幕に向けた準備に忙殺される日々を過ごしています。巻頭言にも書きましたが、ぜひサントリーサンパーズ大阪に温かい声援を送ってください。(42期 松下治正)

■ 卒業生が六甲愛を持っているのはわかるのですが、卒業生以外も六甲愛を持っているのが、六甲かもしれません。うちの会社で新規契約のお客様が来たのですが、どうしてうちの会社を選んだのかと尋ねると、六甲の卒業生だからですといわれたので、お客様は何期生ですかと聞くと、卒業生ではないと答えられ、最近別の六甲卒業生の会社と取引して、六甲愛が芽生えたと伝えられました。息子さんも将来六甲に入れることに決められたそうです。

ロサンゼルス同窓会の問い合わせで、旦那様がなくなられたのですが、奥様が代わりに同窓会に参加したいと言われたこともありました。

同じ同窓会の問い合わせで、六甲の通学路に昔住んでい

て、体育祭、文化祭とかの行事も好きだったから参加したいという問い合わせもありました。

今後もみんなから、愛される学校であってほしいと思いました。(42期 森下秀明)

■ 昨年度伯友83号では文化祭三役にインタビューし彼らのキラキラ輝く希望に満ちたパワーに惹きつけられました。次は体育祭三役にインタビューをしようとして約1年越しの想いでインタビューに臨みました。彼らの体育祭に懸ける想いは想像を超えた熱さと真っ直ぐさを持っていて、委員長の土井君は六甲に入る前の小学校4年生の頃からの想いを持って体育祭に挑んでいました。副委員長の森君と安部君も委員長ではなく自分の特性を客観的に考えてあえて副委員長を目指して委員長を一番近い所で支えると心に決めていました。その純粋さは私の仕事に疲れた心にズキンと刺さり、あまりの衝撃にインタビュー中に涙が止まらなくなってしまったのでした。若い頃誰もが真っ直ぐな心を持って何かに挑んでいたと思います。しかし世の中の既成概念に浸かっているうちに仕方が無い、ここまでで充分だなどと妥協や辻褄合わせを覚え真っ直ぐな気持ちを保てなくなってしまう、そんな自分に気づきました。しかし彼らのように自分も若い頃は真っ直ぐであまりの真っ直ぐさゆえに周りの人に気持ちをぶつけたり、先生にも生意気に楯突いたり、また一所懸命体育祭で行進をしていたのを思い出しました。私も彼らと同じ真っ直ぐさを確かに持っていた、その衝撃に涙が止まらなかったのかも知れないとも感じました。これからも現役生へのインタビューは続けていきたいですし若い頃の自分に対面する機会を持って行きたいと思います。(50期 藤枝誠)

■ 今年度から広報委員会に参加することになり、体育祭の取材を担当しました。インタビューで体育祭委員長達の真っすぐな思いを知り、胸が熱くなりました。迎えた当日、様々なプログラムで盛り上がっていましたが、やはりメインは総行進です。私たちの在校時と同じ行進曲の演奏が流れ、学生時代の記憶が蘇ってきました。実際に総行進をしていた学生時代よりも、卒業して外から眺めた今回の方が心を動かされました。伝統を引き継いでくれている後輩達、今回の機会を与えてくれた伯友会の皆様に感謝します。ありがとうございました。(53期 岸本吉史)

お詫びと訂正

伯友春号(84号)で誤りがありました。

P4 ■伯友奨学基金にご協力を
寄付者(敬称略、匿名希望を除く)

(誤) 27期 安光央

(正) 68期 安光央

訂正してお詫び申し上げます。

会員の皆様へ

■会誌「伯友」秋号の発送について

六甲伯友会の会誌「伯友」の春号は会員全員に、秋号は会費納入者で秋号の送付を希望される方と、六甲学院を卒業後4年間に該当する方、全員に送付いたします。

広報委員会では、情報提供をホームページ等を通じて会員サービスの向上を図っております。ご意見・ご質問・ご要望等ございましたら、伯友会事務局までご連絡下さい。

☐ WEB www.hakuyu.jp

☐ X @rokko_hakuyu

尚、秋号送付を追加で希望される方は事務局までお申し出下さい。

■会費について

会員には会費の納入義務があります。会費は伯友会にとって重要な収入であり、伯友会運営にとって貴重な財源です。

657-0068

兵庫県神戸市灘区篠原北町1-8-25

伯友太郎 様
(00-00-00)
|
期 学年での番号 会費納入状況

あなたの会費が何年度分まで納められているかは宛名の右下に記載されています。もしあなたが終身会員であれば、会費納入状況は『終身』となっています。2024年度分まで納入済みの方は『2024』となっています。また、会費納入実績がない場合は記載がありません。

年会費：年会費は3,000円です。会費未納期間が3年以上ある場合は、2年前に遡り本年度分を含めて3年分納入いただきます。

終身会費：終身会費は45,000円です。既に半数以上の会員が終身会員になっています。終身会員になると年会費の納入の必要がなく、毎年会費を納入する煩わしさもなくなります。また、過去の未払いの年会費を遡って徴収することはありませんので、終身会員になられることをお勧めしています。なお、今年度以降の会費を納入済みの方にはその分を45,000円から差し引かせていただきます。

■伯友基金について

伯友基金は六甲学院の教育活動と社会奉仕活動のために使用する目的で1993年に設立された基金です。第3運動場のナイター照明や高校教室のプロジェクター設備なども、この基金を活用して設けられました。また、基金の一部から、東ティモール聖イグナチオ学院奨学金プログラムへの協力も行っております。

■伯友奨学基金にご協力を

六甲学院からの要請を受け、「伯友奨学基金」を設立しました。昨今、学費に困窮する学生が増え、大学生の二人に一人が約300万円の負債を負って社会に出るのが日本の現状となっています。六甲学院も決して例外ではなく、奨学金を必要とする学生が年々増加しております。“家庭の経済的理由で六甲学院を去らねばならない後輩をひとりも出したくない”という思いで設立された奨学基金です。

伯友会からの奨学金として、年間約50万円の授業料相当分を一人もしくは二人に給付していくことを目標としており、これからも継続的な積み立てが必要です。引き続き基金へのご協力をよろしくお願いいたします。

*ご入金の際には必ず期・氏名をメール又はFAXで事務局までお知らせください。

*寄付者のお名前は会誌の春号に掲載されます。匿名希望の方は併せてお知らせください。

ご寄付いただいた額の領収書を発行することは可能ですが、六甲伯友会は学校法人ではないため寄付金控除の対象になっておりません。ご了承ください。領収書が必要な場合は事務局までご連絡ください。

■伯友会事務局からのお知らせ

伯友会事務局執務時間は年末年始とお盆の頃を除いて原則的に月・水・金曜日のP.M. 1:00~P.M. 5:00迄です。ご用件の内容によっては、即答出来ない場合もありますが、必ず調べた上お答えいたしますので、ご遠慮なくご連絡下さい。

伯友会会費の納入は

- 三井住友銀行六甲支店 (421)
□座番号 (普通) 1103520 □座名 六甲伯友会
- 郵便振替
□座番号 01110-8-73016 □座名 六甲伯友会

伯友基金への振込は

- 三井住友銀行六甲支店 (421)
□座番号 (普通) 3692900 □座名 伯友基金

伯友奨学基金への振込は

- 三井住友銀行六甲支店 (421)
□座番号 (普通) 4513835 □座名 六甲伯友会奨学金

伯友85号

発行日 2024年10月1日
発行人 藤本久俊
編集・構成 広報委員会
印刷 福田印刷工業株式会社

伯友会事務局

〒657-0068
神戸市灘区篠原北町1丁目8番25号
六甲学院生徒研修所内
TEL. 078-861-6588 FAX. 078-861-6573
E-mail: office@hakuyu.jp
ホームページ: www.hakuyu.jp



2024年度六甲伯友会懇親会

2025 年
5 月 10 日 (土)
ポートピアホテル
六甲伯友会総会
懇親会
は57期が
幹事を担当します



伯友

No.85
2024.10

■発行人 藤本久俊 ■編集・構成 広報委員会

伯友会事務局

〒657-0068 神戸市灘区篠原北町1丁目8番25号
六甲学院生徒研修所内
TEL 078-861-6588 FAX 078-861-6573
Eメール office@hakuyu.jp
ホームページ www.hakuyu.jp